

FIDIC2006 ブダペスト大会報告会 報告者所属企業名等

平成18年10月20日現在

	氏名	社名	部署・役職	FIDIC, AJCEにおける役職または所属委員会名
1	石井 弓夫	(株)建設技術研究所	代表取締役会長	FIDIC元理事・AJCE名誉会員
2	廣谷 彰彦	(株)オリエンタルコンサルタンツ	代表取締役社長	AJCE会長
3	内村 好	(株)建設技術研究所	常務取締役九州支社長	AJCE副会長、 総務財政委員会委員長
4	竹村 陽一			個人賛助会員 技術研修委員会元副委員長
5	金井 恵一	(株)建設技術研究所	経営企画部 担当部長	技術研修委員会 技術研修推進分科会長
6	春 公一郎	(株)日水コン	東京下水道事業部 技術第一部	政策委員会副委員長、 技術研修委員会 FIDICPolicy推進分科会幹事
7	河上 英二	(株)建設技術研究所	経営企画部 次長	国際活動委員会QBS分科会長
8	藤原 亮太	日本工営(株)	コンサルタント海外事業本部 民活事業室	
9	狩谷 薫	(株)東京設計事務所	下水道グループ グループマネージャー	技術研修委員会 FIDICPolicy推進分科会長
10	山下 佳彦	(株)建設技術研究所	技術本部国際部長	技術研修委員会副委員長
11	林 幸伸	日本工営(株)	コンサルタント海外事業本部 民活事業室長	技術研修委員会副委員長
12	蔵重 俊夫	(株)日水コン	河川事業部副事業部長	国際活動委員会副委員長
13	桜井 一	(株)日水コン	海外事業部業務部長	国際活動委員会幹事長、 国際活動委員会CB分科会長
14	赤坂 和俊	(株)日水コン	東京下水道事業部 技術第3部設計第1課	YPグループメンバー
15	宮本 正史	(株)東京設計事務所	取締役海外事業部長	理事、国際活動委員会委員長
16	秋永 薫児	(株)日水コン	下水道本部 事業開発部 担当部長	技術研修委員会 技術研修推進分科会幹事、 国際活動委員会IFI分科会員、YPグループリーダー
17	手塚 誠	(株)長大 広島支社	技術部	
18	小川 義忠	いであ(株)	東京支社 副支社長	
19	花岡 浩	(有)ケープラス	取締役社長	技術交流委員会委員

掲載順はプログラムの発表順に基づく

所属委員会にオブザーバー、アドバイザーは含めず

世界の趨勢を知る

石井弓夫

(株)建設技術研究所 代表取締役会長

FIDIC 元理事・AJCE 名誉会員

私は1989年のワシントン大会以来連続して参加していますが、その目的は何でしょうか。それは一言で言えば「世界の趨勢を知り、それを日本での活動に活かす」ということです。それと2番目の目的として、外国のコンサルタントの友人と旧交を温め、また新しい友人を得ること、開催地と周辺の文化、地理そして土木技術者として社会資本の状況を見学し体験することもあります。

今年からFIDIC理事ではなくなったので気楽に参加できると思いましたが、参加目的を考えると、あれもこれもとなつてなかなか2番目の目的の方はうまく行きませんでした。

大会のメインテーマは“Where the roads meet”ですが、世界から55カ国600人が参加してまさに情報の交差点の役割を果たした大会でした。以下に印象に残った点を記します。

1. 開会式とフォーラム

Dudich教授の基調講演はハンガリーの東西文化の交差点の歴史に焦点を当てたもので同国を理解するのに有益でした。他の講演者はいずれも技術を取り巻く状況が大幅に変化していること、Globalization、IT、市場競争などに立ち遅れている、変化を乗り切れる技術と技術者が求められていることなどを述べていました。

EBRDのコンサルタントサービス調達部長はQCBSが正しいと主張していました。EBRDではCを20%としているようですが、これはとんでもないことだと感じました。AJCEの対応が望まれるところです。

事業執行システムとして日本でもこれからというPPPについて、UKで生まれた当時は西欧中心に採用されていたが現在は、中欧、東欧が中心になっているとの発表には驚きました。AJCEとしても研究を願います。

2. 分科会（参加したもののみ）

約10もの分科会があり、目移りしましたが参加した中から経営、DBO、選定（調達）分科会の状況を報告します。瑕疵担保保険は日本でも問題になっているところですが、時間が折り合わず参加できなかったのは残念でした。

1) コンサルタント企業の将来

現在は土木中心の企業が多いが、今後は幅広い技術が求められているとのこと。これは

わが国も同様です。事業によって JV を組んでいくのがよいと思いました。

2) DBO

日本では DB への対応で手一杯なのに世界では DB に Operation (30 年程度) を加えています。DBO において Representative (The Engineer), Designer, Auditor と別々のコンサルタントが 3 つの役割を持つことになるようです。DBO への対応は企業によって分かれるようで、30 年もの長期にわたって責任を負うのは不利だという意見もありました。

3) 技術力選定 QBS

各国ともコンサルタントは QBS を求めて努力をしています。QBS の問題はそれが客観性を欠くのではないかという点です。国際金融機関が QCBS を取り始めたことで FIDIC はいっそうの努力が必要になっています。純粋に QBS を取っているのは米国だけのようです。日本は FIDIC の協力でようやく国交省は QBS が 30% まで来ましたが、品確法施行を受けてさらに伸ばすことが必要であると痛感しました。

3. 総会

今年は理事の選挙も無く、平穏な総会でした。2010 年 FIDIC 大会開催地もインドとなり、韓国は 2012 年を「約束」されたことで下りたようです。

次期会長には予定どおりカナダの John Boyd 副会長が選ばれました。

4. 大会の反省点

AJCE が東京大会を主催してからすでに 15 年が経ちます。そろそろ第 2 回をやってもらいたいと思うので、運営上の参考になる反省点を記します。

開会式にその国の要人を招いて、挨拶、基調講演をお願いする。日本では皇族(常陸宮)を招いた。

Round Table は国際的には普通の形式である。あらかじめ各テーブルに座長を配置しておき、円滑な議論を出来るようにする。

Gala は旧交を温めるに絶好の機会である。今回のような小部屋方式では連帯感も湧かない。

文化を知ってもらうためにはパフォーマンスが重要。東京大会で好評を得たのは和太鼓だった。

ランチの立ち食いは頂けない。

以上



FIDICブダペスト報告会 - Joint FIDIC - EFCA 2006 Presidents Meeting

廣谷彰彦
(株)オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長
AJCE会長

会議開催日時 : 24 September 2006 (日)、09:00~1200

会議開催場所 : ブダペシュト:ホテル・インターコンチネンタル会議室

参加者 : パデラFIDIC会長:レプラスEFCA会長

各国MA会長等:AJCEからは廣谷会長ならびに内村副会長

議 題 :

1. 開会宣言ならびに出席者紹介
2. FIDICならびにEFCAの現状
 - FIDICはパデラ会長が2005/06の事業計画に対しての実績を紹介
 - EFCAはレプラス会長が2005/06の行動内容を概要説明
3. 地域グループ報告(GAMAならびにASPAC)
 - それぞれの議長から、過去一年間の事業内容が紹介された。
4. FIDIC - EFCA共同事業の紹介・報告
 - 2004年のFIDIC/EFCA協力合意書が紹介されるとともに、関連する委員会やWGの活動報告がなされた。
5. 両協会に共通する課題の認識と討議
 - 専門化責任ならびに保険
 - 共通化、標準化、ならびに認証
 - 選定におけるガイダンスならびに効率性
6. 意見交換
 - これまでの紹介・報告・課題など、議題に挙げられた内容等に掛かる議論が行われた。
 - AJCEからは、先に行われたデザイン・ビルト調査に際しての各MAの協力に感謝するとともに、本年度も継続するために、更なる協力を頼んだ。パデラ会長から、昨日の事務局会議において、藤江事務局長から内容の簡単な紹介とともに感謝されていた旨の報告があった。

以上

開会式報告

竹村陽一
個人賛助会員
技術研修委員会元副委員長

2006年FIDIC大会の開会式はブダペスト市の中心からドナウ川左岸に沿って下ったところに建てられたナショナルシアターで行われた。ガラスを多く用いたモダンな新しい建物で、付近では大型の建築工事が進行中の地区である。

内部は3階席まである中規模の劇場で、参加者600余人といわれる今大会に相応しい大きさであった。

女性進行役による式次第の説明が、予定時刻の午前9時から開始され、開会挨拶を今大会の開催者であるFIDIC-EFCA-AHCEAの3組織の各会長が行った後、演芸プログラムに入るという簡潔なもので、国または市といった行政関係者の登場はなかった。これは何を意味するのかと少し気になったが、ハンガリー国においてコンサルティング・エンジニアリング産業が置かれた立場の反映だろうと一人合点することとした。

式の内容と概要は次の表のとおりである。

	時間	内 容	講演者	概 要
1	0900	式次第説明等	進行役 Ms.Agnes Hitesy	主催者挨拶と伝統文化紹介
2	0905	AHCEA 挨拶	Gyula Bretz 会長	建築と音楽の伝統をもつハンガリーの未来を開く
3	0910	EFCA 挨拶	Yann Leblais 会長	欧州は変化している、CEのために戦いを、価値をつくるチームワーク
4	0915	FIDIC 挨拶	Jorge Diaz Padilla 会長	ハンガリー協会の歴史とブダペスト大会決定の経緯、今大会への期待
5	0920	音楽	女性バイオリン四重奏	ハンガリー作曲家コダイの曲
6	0935	ビジュアルアート（砂絵）	Frenc Zako	地球生物創世の物語？
7	0950	民族音楽と舞踊		
8	1010	閉式		

大会テーマは”Where the roads meet”であったが、これはハンガリーの置かれている歴史的、地政的な状況を反映してのものと思われた。ソ連圏から離脱して10数年、EU加盟からまだ数年という国の再生期にあたって、経済開発は焦眉の急であるが、そのためには先ずエンジニアリングを起こさなければならない、わが国の幕末を思わせる感じがした。

欧州は地理的な市場拡大を図ろうとする。FIDIC は何処へ向かうのか、開会挨拶（全部で15分）をそんな思いで聞いた次第である。

演芸プログラム（全部で50分）では、バイオリン四重奏もテンポの速い民族舞踊も大いに楽しませてくれたが、フェレンス・ツァコー氏のビジュアルアートの奇抜さには観客が度肝を抜かれたのではないだろうか。ガラスの板に砂のようなものを撒いて指で均しながら図形を描く。それをスクリーンに投影するが、刻々と変化するので、コマ数の多い戯画を見るようだ。最初に水があり、魚や小動物が出てきて、そのうちに恐竜が現われ、火山が爆発して恐竜が死んだところから、これは地球上の生物の創世物語かと気がつくうちにアダムとイブが出てきた。最後は今大会のシンボルマークのくさり橋をかきあげて終わり、見事というほかなかった。

これがハンガリーという国か、ということは十分伝わったと思うが、休憩のあとに続いたオープニングフォーラムと合わせて見ると、よく考えた開会構成だったと感じた。日本人から見ると、ハンガリーは中欧の一つの国といったところで、これといった特別の結びつきを感じることは少ない。しかし、ハンガリー人に対してはアジア人として親しみを感じるところがあり、しかも新しい国づくりに向かって努力を始めている姿に接すると、一つ手助けをして、友好な国同士になれる道が見つけられないものかと思う。

世界には200カ国に近い国々があるわけだが、新興国家の中から戦略的に選んだ国家に支援の手を差し伸べて、将来の国益のために今から手を打つには、ハンガリーがそのうちの一つになるような気がした。外務省の新しい構想を要請したい。

以上



FIDIC大会参加報告書

Opening Forum

金井 恵一

(株)建設技術研究所

経営企画部担当部長

技術研修委員会 技術研修推進分科会長

会議概要

会議名 オープニングフォーラム

日時 9月25日(月) 10時30分～12時30分

場所 National Theater

議長 (モデレーター) Anna Olin

内容

1. 「カルパチア盆地の前史と歴史」 Prof. Endre Dudich

ハンガリーは中央ヨーロッパのカルパチア盆地の中央に位置しており、昔から様々な道が交差する地域であった。カルパチア盆地を西へ東へ、或いは南へ北へと運ばれていったものは数多い。はるか古代には黒曜石や琥珀、鉄や塩が交易され、ローマ帝国時代にはその長大な軍事路がここで交差した。また、フン族をはじめとする東方民族やドイツ民族、更には圧倒的な力を誇ったオスマントルコなど様々な民族が凌ぎを削る一方で、カトリックや東方正教といったキリスト教各派やイスラム教が勢力拡大を競った時期もあった。近代以降は、オリエント・エクスプレスをはじめとする大陸横断列車が交差し、空路では、フェリヘジ空港が欧州の大空港のひとつとはいえないまでも、いくつかの国際路線がここを中継地点にしている。最後に、お集まりのみなさんの道がここで出会ったことを大変うれしく思う。ようこそハンガリーへ。

2. 「ハンガリーのエンジニアリング」 Prof. László Somlyódy

ハンガリーの優秀な自然科学や技術の学校、およびBolyaiやvon Neumannなどのこの分野での巨人たちが、この国の19世紀から20世紀にかけての発展とその後の現代化に大いに寄与してきた。第2次世界大戦後は(共産圏の中で)不安定な発展の時期が数十年にわたって続いたが、その後ヨーロッパ世界に復帰し、EU統合のプロセスにかかわる機会を得た。最近のエンジニアリング界の傾向は、「閉鎖的・直線的なシステムから開放的で複雑な大システムへ」「環境、持続性、資源循環を原則とした統合」「分野をまたがったアプローチ」「ITや資源科学などの新分野追及」などであり、これらの発展の障害となるおそれのあるものは、政治状況、組織、法規制、意思決定などである。欧州統合を通じた市場のグローバル化の下でハンガリーでのコンサルティング業務には膨大なニーズがあり、ビジネスの進展が見込まれる。主な期待分野と

しては洪水管理、資源科学、交通管理、建築などがあり、鍵となるのは、ITや先進技術、研究開発の成果などである。ハンガリーのこれまでの経験と今後の推移は、他の小さい国々へのよき教材となるであろう。

3. 「グローバル化を背景としたコンサルティング業務の将来」

Prof. Roger Flanagan

10年後のエンジニアリングビジネスはどうなっているのか。将来への変化を誘発する要素となる世界的な問題とは何か。我々は、インターネット網がわずか4年で急成長した「知識」ベースの経済の中に生きている。ITと通信分野の革新は急激で、先行開発者への見返りは大きい、そのための投資も莫大である。低開発国での人口急増問題、先進国での老人化問題、住宅・都市問題など世界的に発生しつつある諸問題の解決も求められる。また、DBOやPPPなど、公共調達の仕組みの変化もあり、資金供給源の公共から民間へのシフトもある。これらの全てが今日のコンサルティング業界に大きなインパクトを与えている。そして、変化のスピードの速さへの対応が21世紀に生きる企業の大きな試練である。成功への鍵は、なんといっても「人材」である。今急成長しているコンサルティング企業は、技術のギャップを埋めるための革新的な方法 - 新しい形でのパートナーシップやアウトソーシングなど - を取り入れている企業である。コンサルティングエンジニアは、自らの職業に誇りを持つべきである。なぜならCEは従来にも増して、発注者が事業のリスクを評価し、マネージしていく上での助言をするようになってきているからである。そして、CEの報酬は、提供するサービスの質と革新性に応じて支払われるべきものである。

4. 「エンジニアリングの新しい領域」 Mr. Dominique Louis

エンジニアリングビジネスの新しい領域が次々と生まれてくるのは何故か。一つは、市場に到達するスピードである。最も大きいパイを取るためには速くなければならない。それから市場のグローバル化である。アジアでの開発ブームも大きい - しかし、ここでは新しい競争相手が生まれてきている。そして、航空機や自動車などの製品開発はとどまるところを知らない。その結果はどうなっているか。新しい顧客（航空業界、自動車業界）の登場、新しいビジネスモデルの登場（海外、リスクシェアリング）、新しい競争相手の登場と避けられない企業連携・合併、新しい技術者像（from Skill to Behavior）、国際的な文化（言語、移動、異文化習慣）などが顕著である。そして、プロジェクトをマネージするだけでなく、如何に発注者をマネージしていくか、といった新しい考え方が世界的に起こってきている。欧州におけるグローバル企業の生起は、国内企業の統合の結果であり、いまや欧州は巨大な国内（Domestic）市場である。

以上

フォーラム : プロジェクト実施手法 (Forum I: Project Implementation)

春 公一郎

(株)日水コン 東京下水道事業部技術第一部長

政策委員会副委員長

技術研修委員会 FIDIC Policy 推進分科会幹事

日時: 2006年9月25日 14:30~15:30

場所: インターコンチネンタルホテル Ballroom I~III

Speakers: Peter Mitka (PricewaterhouseCoopers、チェコ)

Sudhir Dhawan (Tractebel Engineers and Constructors Pvt. Ltd. インド)

Siegfried Wanker (Strabag、オーストリア)

1. はじめに

本フォーラムでは、PPP (Public-Private Partnership) を中心とした昨今話題のプロジェクト実施形態について、3人のプレゼンターによる講演がなされた。以下に各発表の要旨を示す。

2. 中東欧 / 旧ソ連邦における PPP (Peter Mitka, PricewaterhouseCoopers)

全体的にみると、欧州では5年前に比べてPPPによる事業実施が活発化しているが、国によってその取り組み姿勢は千差万別である。中東欧 / 旧ソ連邦 (CEE/CIS) では、チェコのようにPPPは全ての問題を解決できると信じている国もあれば、ポーランドのように信じていない国やスロヴァキアのようにまだ考えがまとまっていない国もある。概して、成熟してはいない。

公共事業のPPPにあっては、要求事項が多岐にわたるため、コンサルタント一社では対応が難しくなっている。したがって、PPPの成功はさまざまな形態でのパートナーリングにかかっている。また、入札に際してコンサルタントは、リスクを考慮して次のような対策を講じていく必要がある。

- 発注者の教育
- TOR作成過程への関与
- 協力会社の活用
- コンソーシアムの結成 (リスク問題が解決できれば)
- 低価格入札の回避
- 予算が不確実な公共プロジェクトへの参加回避

3. プロジェクト実施手法 (Sudhir Dhawan, Tractebel Engineers and Constructors Pvt. Ltd. India)

PPPは、インフラのほか、工場や発電所、各種ユーティリティなど、さまざまなプロジェクトで行われているが、クライアントも公共あり、民間ありと多様である。また、実施手法もEPCM、DBO、BOO、BOOTなど、多岐にわたっている。契約もまちまちなのであり、どのようなプロジェクトにも通用するような万能の処方箋はない。

EPCプロジェクトの場合、コンサルタントの役割は限定的なものとなる。多くの事業主体は、

オープンな競争を避け、好みのコンサルタントを使おうとするからである。一方、EPC プロジェクトにおいてクライアントサイドのエンジニアとして役割を演じたり、企画段階から行政機関や事業主体にコンサルティングを行ったりすることも考えられる。

多様な事業形態に対応するため、コンサルタントには、ビジネスや法的側面も含めた他分野の専門家を擁することが求められる。また、ファイナンスも含むプロジェクトの場合は、その分野のアドバイザーとの連携が必要。その他、コンサルタントには、時間やコストの管理が求められる。

コンサルタントにとって余り馴染みのない分野だが、リスクの内在する大プロジェクトに賠償保険は不可欠である。クライアントにより補償されない部分の費用負担をコンサルタントに求められるおそれがある。特に途上国のコンサルタント協会は、会員企業にその旨を周知徹底すべきである。

これらを踏まえ、コンサルタントは次のような点に留意して取り組む必要がある、

- プロジェクト個々に採用すべき実施方針（ストラテジ）を検討
- 多様なストラテジを身につけた熟練プロジェクトマネージャを保有
- リスクを列挙し、各々について対策を検討
- 適切な保険を利用

4. パートナーシップ・モデル(Siegfried Wanke, Strabag)

パートナーシップ・モデルには、顧客にとって多くの利点がある。商業ビル等を手がけるコントラクターStrabag 社では、「チームコンセプト」に基づくインテリジェントな建設を提唱している。チームコンセプトにより、効率性、品質、工期遵守、費用を確実なものにできる。

Strabag チームコンセプトは、企画・計画・建設・運用の4段階で構成される。

企画段階では、調査、ファイナンス、労働安全等について検討を行うと共に、他のプロジェクトとの比較により評価を行う。計画段階では、設計チームをとりまとめ、設計を完成し、工程・コストの見直しを行うとともに、工期・コストを縮減するための代替案検討により最適化を図る。建設段階では、プロジェクト・マネジャーが下請け等のアレンジを行い、予防措置の検討やコストの監視などを行う。運用段階では、検査・維持管理プログラムを提供するとともに、修繕や改装に際して必要な調査を実施する。

これらの段階の内、とりわけ企画・計画段階が重要である。プロジェクトの初動段階での対応の良し悪しが、コスト等に大きく影響するからである。

5. おわりに

プロジェクト実施形態には万能の処方箋がないということもあり、一般論に終始した感はない。本フォーラムの講演者が純粋なエンジニアリング・コンサルタントではなかった（監査・税務法人、エンジニアリング会社、コントラクター）ことも、漠然とした印象の原因かも知れない（この辺は、PPP におけるコンサルタントの立場を象徴しているのかも知れないが）。今後は、もう少し小規模な場で、CE サイドに立った各国の具体的経験（生の声）をシェアしてもらいたいと感じた。

Forum 2: Procurement best-practice

河上 英二

(株)建設技術研究所 経営企画部次長

国際活動委員会 QBS 分科会長

1. 日時、場所

2005 年 9 月 25 日 (月) 16 : 00 ~ 16 : 45

Ballroom - - , Hotel Intercontinental

2. 発表者

プレゼンテーション

タイトル : "Shanghai a grand platform for the development of the engineering consulting profession "

発表者 : Jiang Yingshi(Shanghai Development and Reform Commission)の代理

【概要】

近年、会長の Mr.padilla をはじめ、元会長の Mr.Bower, Mr.Pedersen, Mr.Kell が公式に上海市政府の幹部を訪問し、また、2002 年 5 月には中国コンサルタント協会(CNAEC)と上海市政府と合同で“ International Engineering Consultancy Forum on Sustainable Development of Shanghai ” のフォーラムを成功させるなどますます FIDIC と上海市との関係が強くなっていることが紹介された。

次に上海での都市開発が大々的に進み、利便性や市民の生活環境の改善、また世界的にも開けた都市に発展してきていることが報告された。また、この開発には高度な科学的側面や FIDIC のポリシーでもある“ Sustainable development ”にも配慮し、必要なプロジェクトには公正な国際的な入札のもと、イギリスやフランス、日本、イタリアなど海外のハイレベルのコンサルタント企業や専門家の参加を求め、慎重に取り組んできたことが報告された。現在、上海では 200 の海外コンサルタント企業を含む 1400 以上の企業がコンサルタント業務に関わっており、その数は 15 万人を越えるとのこと。おかげで、上海のコンサルタント企業も、国際的な競争に参加できるまでの力がついてきたことが報告された。

次いで、Expo2010 が上海で開催されることが決まり、テーマは“ Better City, Better Life ”とのこと。今後、開催に向けて、生活の向上、また古い街並みや施設の保全、さらには様々な環境への配慮をしながら、必要な施設や構造物の建設や整備を進めてゆくことになるが、これには非常に多様で高度なエンジニアリング技術が必要である。現在、上海 Expo パーク計画案収集に関する一般競争入札に JV を含む米国、イギリス、フランスなどの 10 の設計会社が参加している。今後は、インフラやパビリオン、また将来的には Expo 終了後の跡地利用など様々なプロジェクトがあり、FIDIC 加盟のコンサルタント企業をはじめとする多くの海外コンサルタント企業の参画が必要であり、また歓迎するとの報告であった。

プレゼンテーション

タイトル：“Selection and Engagement of Consultants and the Adoption of Best Practice”

発表者：Dilek Macit(EBRD Director of Consultancy Services)

【概要】

Dilek 女史からは、EBRD(The European Bank for Reconstruction and Development) としてのコンサルタントの必要性、選定方法等に関する説明がなされた。女史は、昨年の北京大会でもほぼ同様のプレゼンテーションをしており、ここではこの大会で新たに付け加えられた点を中心に報告する。

- コンサルタントの選定について
 - ・ 品質が最重要
 - ・ QBS：最も重要な基準は、技術的資格や関連する経験
 - ・ 評価基準として以下の表が示されたが、地域要件が考慮される

評価項目	範囲
コンサルタント企業の関連する経験	0-10%
Innovation(創造性)、Methodology(方法)、Sustainability(持続性)、能力形成(Capacity Building ; training, transfer of know how)、品質保証 (quality assurance;back up capacity)	25-35%
チーム構成、資格、経験	50-55%
地域要件、地域との関係、所在	15-20%

- ・ QCBS
2 封筒方式、技術：価格 = 80：20 ただしある技術評価をクリアすること
技術評価を終わらないと価格は開封しないので 2 封筒方式と呼んでいる。技術評価で 70% 以下は価格評価に進めないとのこと (A D B は 75%)。

この他には国際金融機関 (IFI)、国際開発金融機関 (MDB) が不正や汚職の防止、またこれらとの戦いに関する枠組みに合意したことなどが報告された。

価格評価のウェイトを 20% 以上にすれば、CBS になることを指摘しながらも、QCBS の運用に関するもう少し詳細な分析結果の提示があればと感じた。コンサルタントの技術力 (資格や経験など) が最重要としながら、入札のシステム (透明性や門戸の開放、利便性などを目的) 改善や業務のモニタリングなどは実施しているが、入札契約方式自体の改善の方向性が示されない。これは、現状で問題がないとの判断であろう。



Forums

Panel Discussion

1. 氏名 : 藤原 亮太
2. 所属企業名、役職名 : 日本工営(株) コンサルタント海外事業本部 民活事業室
3. 会議についての概要
 - 3-1. 会議名 : Panel Discussion - "Forum 3:Emerging Issues" から変更された。
 - 3-2. 日時 : 2006/09/25, 17:10 - 17:30
 - 3-3. 場所 : Hotel Intercontinental, Ballroom I-II-III
 - 3-4. 司会 : Anna Olin, A0BC, Sweden
 - 3-5. パネラー : Dominique Louis, Assystem, France
 Sudhir Dhawan, Tractebel Engineers & Contractors, India
 Dilek Macit, EBRD, UK
 Lazlo Somlyody, Budapest, Hungary

4. 会議の内容

プログラムに拠れば Roger Flanagan、Laszio Somlyody、Dominique Louis の3氏により "Forum 3: Emerging issues" が催される予定であったが、上記の概要によるパネルディスカッションが約 20 分にわたって行なわれた。司会は Opening Forum 及び Forum I と II に引き続き Anna Olin 女史、パネラーはこれらフォーラムの発表者(一部)であった。

議論は、司会者がテーマを出してパネラーの意見を求める形で進められた。テーマと意見の要点を以下に記す。

(1) 市場が変化していく中で将来、コンサルタントはどうなるべきか。

- 1) 市場は大きく変化しており技術・監理といったことから国際間にわたる業務或いは経済に係る分野への挑戦が求められるだろう。その中で技術的な事項だけでなくリスク分担をどうするかといったことも重要になる。このような変化の中で小規模な企業は得意分野での強化、大きな企業は大規模な業務に取り組むことになるだろう。
- 2) チームとしての組織的活動が大切になる。そしてより新しい技術、財務や経済に関する知識も持ち合わせる "Multi Skill Engineer" が望まれるだろう。とはいえその様な知識の全てを学校では教えられないので、「ものの考え方」を教育することが大切である。

(2) 技術や知識をどのように報酬へ反映させることができるか。Engineer の報酬が弁護士や経済専門家より低いのは事実であり、この状況をいかに変えるのか。

- 1) コンサルタント間で価格競争をやめ、価格を維持すべきである。一時的に仕事は減るだろうが、将来的にはこの産業を維持することにつながる。
- 2) 顧客側は、「技術面を重視する」と言いながら決定にあたり価格の影響の方が大きいという事実がある。
- 3) 欧州復興開発銀行では、入札にあたり案件の予算額及び調達手順・基準を公開している。



Forums

Panel Discussion

(3) 金銭以外に、コンサルタントのモチベーションを高めこの産業を維持していく手段はあるか。

- 1) 金銭の他に、人間を引き止めるものは無い。
- 2) QCBD に関して幾つかの方法を提案したい。
 価格を固定して(顧客が指定して)、完全に技術提案のみで選択する。
 評価の重み付けを技術:90%、価格:10%とする。

(4) これからの技術者の教育は如何に。

- 1) 世界の色々なところへ行かせることが大切だ。
- 2) 知識の習得よりも経験をどうやって積ませるか。
- 3) Communication Skill の習得が重要。

(5) その他の意見。

- 1) 「リスクの分担」が話題になっているが、リスクをいかに管理し、いかに低減するかということを議論すべきだ。

5. 日本に於ける課題、提案

本パネルディスカッション及び Opening Forum 及び Forum I と II を聴いたところの感想・所見を以下に述べる。

5-1. コンサルティング市場の複雑化

FIDIC 及び AJCE の会員は公共施設の建設に係る市場での活動が主である。昨今、この市場環境が複雑化してきている。即ち

- 1) 公共施設の利用に至るまでには計画、設計、施工、運営の段階がある。従来はそれぞれ個別の業務であったのが、複合型の業務が要求されるようになった。
- 2) 公共施設に係る事業では、資金調達と運営:自治体、建設:民間と分けられていたが、PPP では全てについて民間が関与する。

従って今まで受注していた業務に必要な範疇を越えた技術、知識、技能が無いと顧客の要求を満足できないようになってきた。

しかしこのような総合的サービスは、労務費と材料費の積み上げで算定できる金額以外のもの(税支出削減、きめ細かい住民へのサービス、など)も提供する。これに対応して報酬・対価も単価の積み上げによる査定から、提案内容の評点と「喜んで支払う金額値」の2要素が査定に大きく影響するようになるものと期待したい。

5-2. コンサルティング市場の国際化

情報、金、人、物の国際間の流動化が著しく進んでいる。コンサルティングサービスも対象外ではなく、WTOで進められている貿易の自由化に「サービス」も含まれている。コンサルティングサービス取引の流動化とは人材が移動するだけでなく計画、設計といったサービスそのものの取引も含まれ、国際的な価格・品質の競争に飲み込まざるを得ない。

このような状況の中では、本邦コンサルティング企業も近い将来、次の様な選択をせまられるかもしれない。

- 1) 価格競争力を追求する。低物価国での生産体制。数をこなして利益を積上げる。
- 2) 資金の潤沢な特定の分野で品質競争力を追求する。高い単価により利益を稼ぐ。

(以上)



Workshop1 Emerging Issues Business Opportunities - New Markets

1. 氏名 : 藤原 亮太
2. 所属企業名、役職名 : 日本工営(株) コンサルタント海外事業本部 民活事業室
3. 会議についての概要
 - 3-1. 会議名 : Emerging issues, Business opportunities - new markets
 - 3-2. 日時 : 2006/09/26, 11:00 - 12:30
 - 3-3. 場所 : Hotel Intercontinental, Ballroom II
 - 3-4. 議長 : Peter Heil, Vice President
National Development Office, Hungary
 - 3-5. 世話係 : Patrick Batumbya, MBW Consulting, Uganda
Dusan Samudovski, SACE, Slovakia
4. 会議の内容
 - 4-1. 議長報告

議長の Peter Heil 氏より「2007 年から 2013 年にかけてのハンガリーにおける機会 (Opportunities in Hungary 2007-2013)」の発表があった。要旨は次の通りである。

 - 1) ハンガリーには 1990 年以前よりの長い変化の歴史がある(1980 年代後半より民主化運動が起こり、1990 年にはオーストリア国境を開放)。
 - 2) 国家発展のための資金が確実に増えており、インフラ開発が加速。
 - 3) 2007-2013 の国家開発計画が策定された。雇用拡大、持続的発展、社会・環境への配慮、が要点。
 - 4) コンサルタントに期待するのは、政策策定、基本計画策定、個別施策計画、施策実施、の各段階への支援である。
 - 4-2. グループ討議

議長報告の後、幾つかのグループに分かれ討議を行なった。課題は「如何にビジネスを拡大するか」である。しかし参加したグループでは議長報告の意図が明確につかめず、次の 3 点に議論が拡散した。

 - 1) 4-1, 4)にある国家計画支援への取り組み
 - 2) ハンガリーのような開発途上国への展開
 - 3) 従来の土木工学を基本とする業務からの拡大

議論の途中でイランのコンサルタントから「イランのプロジェクトは、将来はイランの企業でやるんだ。」という発言があった。
 - 4-3. グループ発表

討議の後、グループ別に討議の結果を発表した。参加グループの発表を要約すると次の通りである。

 - 1) 業務の透明性の確保、知的財産権の保護が重要。
 - 2) Engineering を中心に関連分野・知識と結合を図る。
 - 3) 地元コンサルタントとの良好な関係を構築。
 - 4) リスク管理を行い、より高報酬のビジネスを。
 - 5) 顧客の、公正な契約や適正な報酬に対する理解を促進する。

他のグループの発表でも、国際的コンサルタントと地元コンサルタントの連携に言及された。



Emerging Issues Business Opportunities - New Markets

4-4. Work Shop Report より

翌 27 日午前に全てのワークショップを総括するプログラムがあった。この中で本ワークショップでのグループ発表の内容が次の様にまとめられた。

- 1) 業務拡大戦略:新市場での業務拡大に必要な事項を理解する。
- 2) 案件開発に重要なのは対象地域への理解と地元企業との連携、調達における業務報酬と要求成果の分離。
- 3) 適正な国際コンサルタントと地元コンサルタントの連携、顧客との公正な関係。
- 4) インフラ分野全体ではコンサルタントが不足であり、国際的連携で取り組む好機。若年の技術者にもチャンス。
- 5) アフリカに商機あり。国際的コンサルタントとの連携を望む。
- 6) 経営コンサルタントは高報酬であり、この分野に進出すべき。
- 7) 大コンサルタントと中小コンサルタントの住み分けが必要。
- 8) 市場での透明性・公正さが求められおり、顧客と共に取り組むべき。業務分野の拡大を積極的に売り込もう。
- 9) 業務仕様書の程度がまちまちであり、統一化について FIDIC で大いに支援して欲しい。
- 10) (以上をまとめて)商機拡大のポイントは
商機は途上国にも先進国にもある。
地元との良好な連携・混成が重要
FIDIC に、インジコアリグの関連・周辺分野での取り組み指針作成を期待。

5. 日本に於ける課題、提案

5-1. 大規模コンサルタントと中小規模コンサルタントの経営戦略

本ワークショップで議論された状況は本邦にても同様と考えられる。即ち

- 1) 大規模コンサル:公共事業民活化、設計施工導入などの市場の変化に伴い、プロジェクト実現に必要な要素を幅広く統合する機能が求められる(ゼネラルコンサルタント化)。但し業務拡大のための過剰投資に注意する必要がある。
- 2) 中小規模コンサル:投資余力が限られるため幅広い業務拡大には対応しにくい。従い会社の戦略に応じた分野に特化して競争力を高めることになる。但し特化分野の市場環境(黎明/成長/安定/衰退)に注意しなければならない。

5-2. 海外市場への進出

途上国側では「技術導入したい」、先進国側では「市場を拡大したい」という思惑が一致している。本邦企業も、地元企業との良好かつ生産的な関係が構築できれば海外市場進出が可能である。但し以下の点に留意する必要がある。

- 1) 外国企業は排除したいのが本音であり、発展に従い外国企業排除の圧力は高まると思われる。将来の撤退或いは地元企業化を視野に入れる。
- 2) 海外市場における価格競争力を向上させるため優秀な外国人技術者の育成、獲得に努める。「日本企業の発展 = 日本人の雇用・所得拡大」とはならない。

(以上)



Workshop 2 The Consulting Engineering Firm of Tomorrow

狩谷 薫

(株)東京設計事務所

東京支社 下水道グループマネージャー

技術研修委員会 FIDIC Policy 推進分科会長

日時：2006年9月26日(火) 9:00-10:30

場所：Intercontinental Hotel, Budapest, Ballroom II

参加者：約100名

Chairperson: Martin Guldner, GOPD Consultants, Germany

Facilitators: Kok King Min, CPG, Singapore

Richard Stump, Stanley Consultants, USA

(1) ワークショップの目的

1. 2020年のCE企業はどのようなになっているかを創造し、CE企業の将来の輪郭を描く
2. CEの将来に向けたチャレンジの方向性を探る

(2) ワークショップの進め方

1. 座長及びファシリテータによる状況の概要発表と課題提起
2. 提起された3課題毎に、ラウンドテーブル(10RT, 8~10人/RT)毎で20分間ディスカッション(RT毎の発表を含む)(実際は第3課題に関してはディスカッションする時間がなかった)
3. 発表から得られた知見のとりまとめ(本ワークショップ内では行われずに、9月27日のWorkshop Reportsで行われた)
4. 質疑応答

(3) ワークショップの概要

冒頭で座長、ファシリテータから、将来のCE企業を展望する際の以下に示す3つの課題が示された。その課題に関して座長、ファシリテータから状況概要及び議論の切り口に関する説明があり、その後、各課題にRTディスカッションが行われた。

市場はどのように進展するか？

我々の産業におけるイノベーションの役割は何か？

グローバル化がCE企業の組織構造に与える影響は何か？

1. 市場はどのように進展するか？

1) 視点

- ・ 将来的には、どのようなチャレンジに取り組むべきか？
- ・ CE企業の役割は何か-つまり必要とされる専門的技術とサービスの領域？
- ・ 現状でのサービスが将来もサービスとなりうるか？

これを前提に、要因/トレンド、そのCEへの影響、及びその発生確度といった項目で概略整理され表が示された。その内容は次のとおりであった。

新規の財務モデル-古典的業務種別の変更、調達専門知識、財務工学、PJ管理
大企業のみが管理できる大規模統合PJ及びコスト低減圧力-合併及び大企業のより増加する役割、グローバル企業の合併(既存企業の拡大や合併)、市場を去る企業
気候変動-天然資源管理PJ、災害緩和・警告SYS、予防・保護技術、環境PJの見直し
安全性ニーズの増大-紛争管理PJ、安全性制御SYS、DB、インフラの新規技術設計
人口問題関連開発、西洋世界における高齢化-社会SYS設計、社会セクターコンサルタ

ンシー，社会政策改革，新規社会インフラ
メガ都市
エネルギー不足
情報技術等

3) ディスカッション

示された表をもとに，参加者の経験・知見を生かして，この課題に関するディスカッションが行われた。意見のいくつかは次のとおりであった。

- ・ リスクマネジメント，ライアビリティ・マネジメントにおける役割
- ・ 要因/トレンドとしてのグローバリゼーションの重要性
- ・ 経済開発は持続可能な開発ではなく，これを達成することに大いなる機会があるので DBO へのシフト等をも勘案し PJ を形成する
- ・ PPP の新規手法が重要であるとともに，財務 PJ に参画する
- ・ アライアンスを組む
- ・ コンサルティングは資源の在処の把握が重要
- ・ クライアントがどこで強いコントロールを持ちたいと考えているか
- ・ 増大する社会的流動性に対応したインフラの整備ニーズ
- ・ スーパーマーケット的経済に対応したコンサルティングの必要性（価格と質）
- ・ 変化の先取りによる市場の先導
- ・ CE はどこまで変化に対する影響を行使し，どこまで変化に追随するか
- ・ 増大するセキュリティ・ニーズへの対応
- ・ 人材不足に対応したより多くの人材の取り込み（女性，マイノリティ）
- ・ SD の推進（代替エネルギー・資材，代替手法）
- ・ 大企業と小企業のパートナーシップ

2. 我々の業界におけるイノベーションの役割は何か？

1) 視点

- ・ ほとんどの CE 企業は組織だったイノベーション・マネジメントもそのための R&D 予算を持っていない
- ・ サービス産業における“イノベーション”の役割は十分に研究されてはいない
- ・ ドイツ PWC 社の新たな研究はサービス産業での“イノベーション”の重要性を示している
約 80%の会社が将来的がイノベーションの役割の増大とポテンシャルが重要と認識
約 60%が明確なイノベーションへの戦略を持っていない
80%が現時点ではイノベーション・マネジメント・システムを持っていない
- ・ イノベーションプロセスにおける主たる駆動要因と重要性を整理した表が例示された
市場による引き上げ効果（顧客要求→競争相手）-高い
マネジメント上の要求 -高い
法律（法的規定） -中間
会議等 -低い
文献 -低い
- ・ イノベーションの成功のための 4 つの柱が示された
イノベーション戦略の存在（製品，プロセス）
イノベーション・マネジメント・システムの存在
企業のイノベーション文化の存在
イノベーション制御システムの存在

以上の議論をもとに，イノベーション・マネジメントに関して，戦略，方法と障害，及びその重要性をとりまとめる表が提示された。その例示内容は，知識へのアクセス-大学との協力，シンクタンクとの協力，投資（人材人事，DB と SYS），イノベーション・マネジメントの存在，企業におけるイノベーション文化，イノベーション制御 SYS 等であった。

2) ディスカッション

この表のような考え方をベースに，イノベーションの役割に関して，RTD が行われた。主な意見は次のとおりである。

- ・ 利益誘導が強い企業文化はイノベーションを阻害するものであり、小企業の方が、実施が容易な傾向にある
- ・ バリューエンジニアリングがイノベーションを誘引する
- ・ 自治体は改革しにくく、イノベーションを容認したがない
- ・ ある課題に焦点をあて、政府の研究機関を巻き込むことが重要
- ・ イノベーションに多く時間を割けば、CE フィーはより低くなる傾向にある
- ・ 企業文化がイノベーションの主たるドライバーである
- ・ 大企業はデータベースや資源が豊かでイノベーションがしやすい環境にある
- ・ イノベーションを業者選定の考慮に入れるよう、顧客を教育する必要がある
- ・ イノベーションに関して、何らかの荣誉やインセンティブが必要
- ・ 大学の研究センターとの関係が必要
- ・ 設計コンペはイノベーションのドライバーとなりうる
- ・ 長期的な利益が必要
- ・ 我々業界はイノベーションをリードするために、大学にものを言うべきである
- ・ 明確なイノベーションなどなく、CE では try & error より error & try が重要である
- ・ ネットワーキングが重要

3. グローバリゼーションが CE 企業の組織構造に与える影響は何か？

1) 視点

- ・ グローバリゼーションは途上国においてと同様に先進国においても、国境を越えた合併やネットワークに影響を与える新たな競争環境を創出する
 - ・ 基本的な仮定 (PJ)
 - 全ての PJ は基本的にローカルである
 - ローカル CE は信頼に基づいている
 - ローカルな法律/規制/規則は市場を理解する鍵である
 - 大規模な複雑な PJ は大企業を必要とする
 - ・ 基本的仮定 (利潤性)
 - 利益率/企業規模に明確な相関はない
 - コーディネーションに係る単位費用は PJ の規模につれて増大する
 - 一般には国内市場における PJ の方が海外 PJ より利潤が良い
 - ・ ローカルなニーズのためには大企業による、特化したローカル CE への助成もあり得る
 - ・ 以上の基本的な視点に基づいて、CE のグローバリゼーションと組織構造と題して、要因と組織/ビジネスモデル/成功のための能力の関係を示す表の一例が示された。示された要因 (driver) と組織例は下記のとおりである。
 - ・ 要因-より複雑な PJ、市場の開放/自由化、同等の技術知識レベルと異なるコスト構造、新規の財務ニーズとリスク対応、寄付/研究所調達 PJ、新規出現市場
 - ・ 組織-高専門化グローバル活動企業 (要因:分野の知識)、専門化ローカル企業 (要因:ローカル知識)、国際的ローカル市場に根ざす企業 (要因:規模、利潤性)、国際統合企業 (要因:知識・顧客・経験の分担等)
- なお、この第3の課題に関しては時間が足りず、RT ディスカッションは行われなかった。

総括

プレゼンや討議内容は、特に目新しい感じはしなかったが、西欧の CE も業務獲得、業務フィー等の点で、我が国と同じ状況にあることを感じた。

ワークショップの総括は翌日の朝一番の Workshop Reports でまとめられたが、そこでディスカッションの結果として、FIDIC 及び MAs の市場傾向の見極め・対応、市場知識、成功・失敗談の共有、改革的 PJ やプロセスの促進及びその解決方法の共有化、またイノベーション文化の促進マニュアルによる MAs や会員企業の援助等を推奨している。

以上

Workshop 3

Role of Consultants Tomorrow

山下佳彦
(株)建設技術研究所 国際部長
技術研修委員会副委員長

日時：2006年9月26日(火) 14:00-15:30
場所：Intercontinental Hotel, Budapest, Ball Room II
参加者：約100名
Chairperson: William Howard, USA, CDM
Facilitators: Andrzej Michalowski, Poland, CH2M Hill
Han Lin Toh, Singapore, CPG Consultants

(1) WS3の目的

1. CEに影響を与えている課題を探る
2. 明日の要求に応える方法を明らかにする

(2) ワークショップの概要

1) CEは変動の時代に身を置いている

・事業の複雑化

増加する厳しい規制がCEの透明性を要求、将来のクライアントを見定めよ、住民の興味と影響が複雑化の要因、事業の複雑性は利害関係者の複雑さと関連、利害関係者のニーズと影響度の理解が事業成功の鍵

・事業の総合化

・調達に関する代替的調達方式

DB、BOT、PPP

発注者は、複雑なプロジェクト全体を、一つのCEに発注したいと望む

設計者と施工者の技術的役割の混合は、施工の達人や構想のエキスパートを生み出す

・グローバル化の波

多様な文化や国家からの専門職と一緒に業務をこなす

多様なチームのマネジメントには特別な熟練が要求される

激化する競争は、価格低下の圧力となる

経費削減のためのアウトソーシングは、品質低下要因となる

CEは複雑な条件の中で、技術的完成度の高さと品質確保に努めなくてはならない

・持続性

持続的な事業は、生活の質を高め、環境を保全し、将来に亘り経済的機会を与える

2) コンサルタントとして技術的な領域を超えたスキルが問われてる

技術以外の領域：経済、政策、環境、社会

3) 統合的資源マネジメント

- ・課題に対する統合的な視点や挑戦は、実行可能なプロジェクトの目標達成に有用である
(施設のアセットマネジメント、利害関係者対応、資金計画、多様な課題の対応)

- ・増加するプロジェクト量、高齢化する労働力、技術専門職の不足等、はCEにとって深刻な課題である

4) クライアントにより多くのサービスを提供するが、報酬は控えめ

クライアントは信頼のおけるパートナーを求めている

優秀なCEはプロジェクトファイナンス、許認可、事業の遂行に長けている

不正防止は基本事項

優秀な CE は発注者の要求事項や事業遂行プロセスに精通しており、責任感が強く前向きである

5) 将来の CE に要求される最低限の要件

熟達した設計者であるより、技術的エキスパートが必要とされている

CE には以下のスキルが要求される

i) 合意を先導し、形成する、ii) 効果的にコミュニケーションを図る、iii) 創造的である、iv) リスクマネジメントができる、v) 統合的な解決策を提案できる、vi) プログラムマネジメントが実施できる、vii) 多様なグローバルチームを指揮できる

以上の要件を具備しない CE は、将来クライアントからの引き合いがないであろう。

(3) ラウンドテーブルディスカッション

10 程度の丸テーブルで共通の質問を討議後、各テーブルの報告者が、テーブルごとに設定された質問を発表した。筆者のテーブルは質問 1 と 2 を担当した。

(質問 1): コンサルタントの役割は変化したか、そうであればどう変化したのか?

(質問 2): クライアントは、独立・中立的なアドバイザーを採用するか? そうであればどのような条件が付与されるか。我々 CE はこのような役割を担えるか?

(質問 3): 将来、コンサルタントは現在と違ったサービスを実施するか? 理由は? CE はエンジニアがグローバルニーズに対応するため、現在と違った委託をするか?

(質問 4): プロジェクトマネジメントは、CE 企業にとってインハウスの位置付けられるか、それとも独立したサービスを行うのか?

各質問に対する討議結果は以下のようであった:

(質問 1): 大半は CE の役割は変化すると考えているが、基本的な業務は同じと思われるため、全員が同意はしなかった。一番大きな望ましい変化はプロジェクト Food Chain の上位に上がる。将来の業務はより高度化し、複雑になるであろう。

(質問 2): 独立・中立な立場のアドバイザー業務は実施されているが、公益と私利との衝突が発生するため、FIDIC はガイドラインを作成して明確にすべきであろう。

(質問 3): 将来は熟達したより多くのエンジニアや科学者が必要となる。CE はエンジニアが社会に与える利益を PR すべきだ。

(質問 4): PM のスキルを開発する必要がある。独立・中立な PM は一部存在するが、それはプロジェクトの理念や要件による。

総括

ワークショップのプレゼンや討議内容は、日本の CE にとっても理解できるものであり、現在直面している、又は今後直面しそうな課題であった。

座長は、ラウンドテーブルを以下のように総括した:「コンサルタントは、変化し多様化する市場やクライアントのニーズに対応できるよう変わらなくてはならない。さもなければ、我々のサービスは「商品」として安く買い叩かれるであろう。また、CE はプロジェクトの食物連鎖のもっとも低いランクに位置づけられてしまうであろう」。

以上

Workshop 4 Project Mechanism

山下佳彦
(株)建設技術研究所 国際部長
技術研修委員会副委員長

日時：2006年9月26日(火) 9:00-10:30

場所：Intercontinental Hotel, Budapest, Ball RoomII

参加者：約100名

Chairperson: Wilhelm Reismann, Austria

Facilitators: Akihiko Hirotani, Japan

Flemming Pedersen, Denmark

(1) WS4の目的

1. PPPの概要把握
2. PPPの事例紹介
3. ラウンドテーブル討議をととしたPPPの理解

(2) PPPの概要(Wilhelm Reismann)

1) PPPの基本と利点

- ・PPPは公的リスクが低い
- ・PPPは受益者負担が原則 適切な資源配分を促進
- ・PPPは公共事業を早く立ち上げる機会を提供する
- ・PPP事業はより適切な予算管理につながる

2) PPPによる協働

- ・PPPは緊密でより高いレベルが要求される挑戦的なパートナーシップである。官民だけでなく民同士のパートナーシップも含む。
- ・通常の利益と専門性を超えたビジネスモデルの必要性
- ・ポイントは多様な資源を相互利益のため、一つのグループに結集すること。プロジェクトマネジメントが成否の鍵

3) PPPは100%PPPではないケースが多い

- ・完璧なPPPプロジェクト(Build-Finance-Operate-Transfer)はほとんど見られない。多くの公共事業は、これらのいくつかの組み合わせで便益を得ている
- ・将来のPPPは、多様で革新的な協働の組み合わせとなろう。PPPは役割と責任を明確にする。
- ・公共経済が弱い場合、PPPは有力な代替案となるが、民が100%官の責任を引き継がない。

4) PPP - 教訓と重点

- ・リスクの特定とリスクマネジメントには高い優先度を設定しなくてはならない。
- ・法的な枠組みは複雑で失敗は高つく
- ・PPPはまさしく技術革新である
- ・PPPの官側負担は通常の公共事業より軽減される
- ・PPPは公益と私利の衝突を半強制的に融合させる。とりわけ地域のJV事業で利益をもたらす。(学校、刑務所、インフラ建造物等)
- ・PPPは政策上論争を呼ぶ場合がある。医療でのPPP(病院の経営等)は成功していない

5) コンサルティング企業に対する考察

- ・PPP プロジェクトは、複雑なプロジェクト遂行のノウハウを提供、ハイリスク、ハイリターン。
- ・今後、優れた専門職とより長期的なパートナーシップを組む必要性が高まる プロジェクトをより革新的な方法で実施する新たな市場機会が形成される。
- ・CE は専門的な設計・施工監理コンサルタントから、広範・多機能・多能なチームに移行。
- ・PPP の原理や経験は、大規模なプロジェクトを革新的で実際的手法で実施するうえで、有用な教育的基盤となる。

6) 日本版 PFI ガイドライン (廣谷会長)

- ・国土交通省の PFI ガイドラインは、PFI 関連事業の実施に強い影響力を与えている
- ・5 種類のガイドラインが開発され出版された：
 - PFI プロジェクトの手順、
 - PFI プロジェクトにおけるリスク回避
 - VFM(Value for Money)評価、
 - 契約、
 - モニタリング
- ・日本の失敗事例紹介： スポパークマツモリ及び テラッソ福岡
失敗の要因

(官側)不適切な施工、建築家の不適切な監督、(民)検査の不備

(官側)需要予測リスクの欠如、リスク分析・対策等の不徹底、(民)観客数の過剰予測

- ・セクター別 PFI プロジェクト：大半は建築物が対象、公共事業は僅か、小規模、河川・道路は実績なし(法的制約、潤沢な財源)
- ・地方自治体は財源、インハウスエンジニア等が不足しており、PPP/PFI にシフトするであろう

7) オーストリア・チェコ間の高速道路建設 (Wilhelm Reismann)

プラス評価

- ・入札段階での集中的で突っ込んだ準備(リスク・コスト分析、技術・経済・法的側面の検討)
- ・最終的には、コスト縮減に寄与

マイナス評価

- ・入札者は契約時をしのぐリスクをとることになる
- ・大陸法と慣習法の組み合わせは、色々なケースで問題が発生する
- ・プロジェクト準備段階での高い投資額

8) ラウンドテーブル協議

10 の質問が用意され、各テーブルで協議が行われた。紙面の関係から、討議結果を以下に紹介する。

- ・PPP は信用を基本とする：信用を築き、パートナーシップを形成、信用と専門職魂が必要
- ・PPP は政治的リスクにさらされる：中央政府の関与が不可欠。明確な制度的枠組みは必須。
- ・PPP は成熟したパートナーが必要：官は準備周到、民は成熟、適切な保険の存在、広い視野
- ・教訓：十分な事例がある、失敗をオープンにする、特注 PPP モデルの構築 - CE の役割
- ・透明性と倫理観は不可欠：中立性の確保、適正な選定手続き、選定過程で官を孤立させない
- ・リスクマネジメントは鍵：初期段階でリスクを特定、エンドユーザーに焦点をあてる
- ・経済移行過程にある国や成長を始めた市場では PPP のニーズが高い
- ・CE の役割：発注者を常に意識、CE の役割を恐れない、締め付けに屈しない、全ての役割を明確にする、プロジェクトの先導役を担う。

(3) おわりに

日本では公共事業が大半で、PPP の導入はこれからである。今後、中央政府はじめ地方自治の予算が下降線を辿る可能性が高いため、PPP の市場性は高くなると考える。国内のコンサルタントは従来の枠組みや殻を破りイノベーションに基づく PPP の形成が期待されている。

以上

Seminar 1: DBO (Design-Build-Operate)契約書

林 幸伸

日本工営株式会社

技術研修委員会副委員長

1. 経緯

DBO(設計・施工・運営)契約書は、FIDIC が作成中の新しい契約約款である。2005 年北京大会においてもセミナーが開催され、当初予定に比べ作業は遅れ気味であるが、今回はより詳細な基本コンセプトと全体の条文構造が示された。報告は契約委員会に設置された作業グループの委員長である Mr. Mortimer Hawkins が担当した(9月26日 11:00-12:30)。来春にテスト版発刊予定。

2. DBO 契約書の特徴

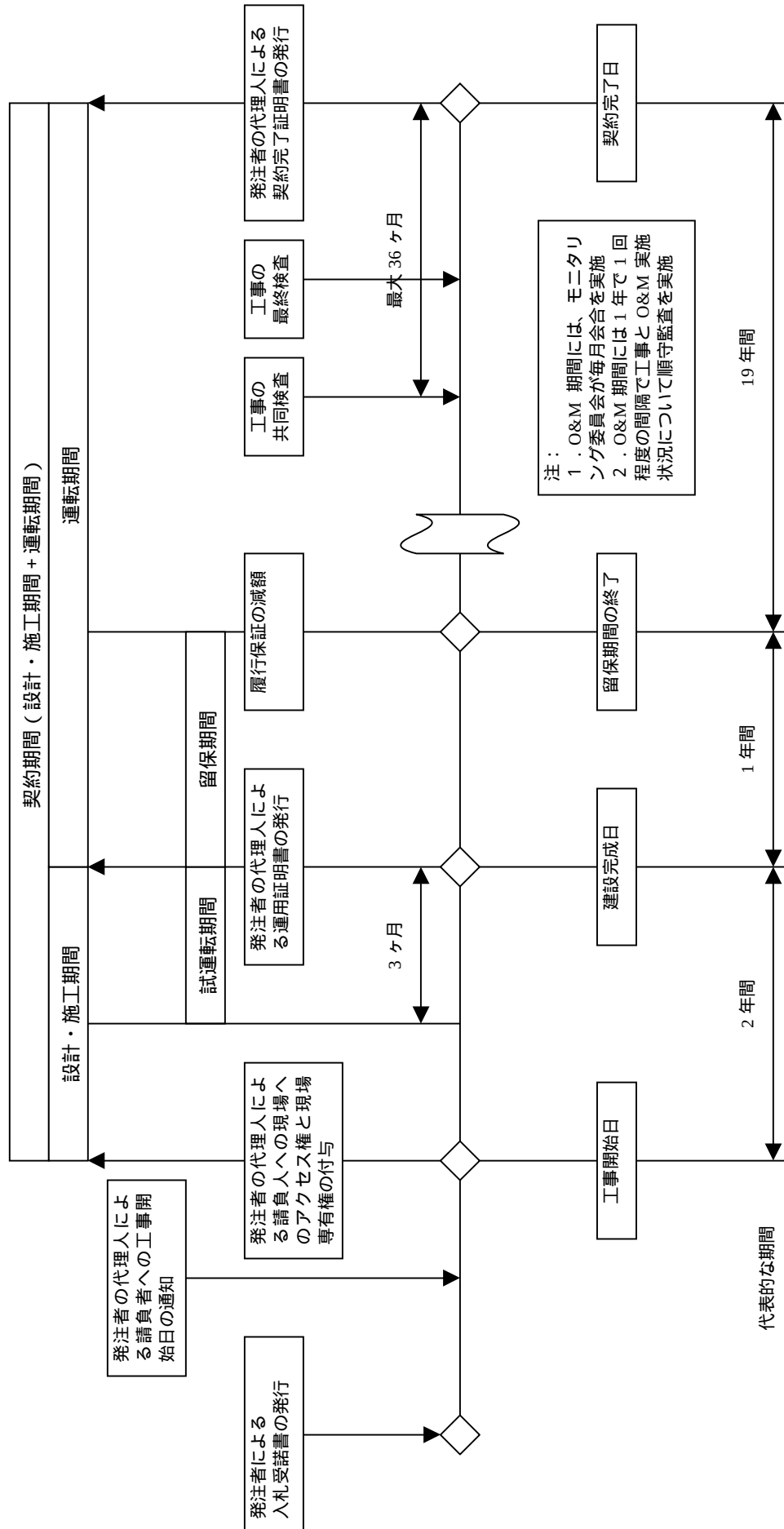
- (1) 請負者の業務範囲：設計・施工・運営（性質の異なる3種類の業務を1本の契約で発注するものであり、各ステージにおけるリスク配分の検討に多くの時間が費やされている。）
- (2) 使用される状況：BOT、PFI、PPPなどの民活プロジェクトにおいて、事業者（SPC）が上記業務を1つの請負者（共同企業体）に一括発注する場合に適用可能（請負者にはファイナンスやマーケットリスクは課せられていない模様）。運営期間は20年、プロジェクトは新規開発案件（green field scenario）が想定されている。
- (3) 業務執行の流れ：添付図参照
- (4) 発注者にとっての利点：
 - 責任分担：請負者側はシングル・ポイントで責任負担
 - 時間：設計・施工方式により全体工期を短縮
 - コスト：全体としてのコストオーバーランリスクの軽減、ライフサイクルコストの低減の可能性
 - 品質：設計段階で建設と運営に関わる品質配慮が可能（請負者自らが建設と運営に関与）
- (5) 契約書構成：レッド（土木）、イエロー（プラント）、シルバー（EPC）1999年版と同じく20条構成を踏襲
- (6) The Engineer の存在：シルバーブックと同じくエンジニアは存在しない。コンサルタントは Employer's Representative、又は請負者側の設計者として参画できる可能性がある。
- (7) 紛争解決：設計・施工段階では、常設 DAB、運転段階ではアドホック DAB を想定
- (8) 新しい考え方：
 - License Agreement：請負者への運営権の付与を本契約の初期段階で約束
 - Independent Compliance Audit：運営段階における順守監査のための第三者組織
 - Asset Replacement Fund：通常のメンテナンスではない、設備の大規模な修繕や更新に関わる費用を契約中に確保するもの
 - Maintenance Retention Fund：主要なメンテナンス費用を留保して、確実な O&M を促すもの

3. 日本の課題

PPPなどの普及により、契約はマルチタスク化が進んでいる。これらの趨勢は、コンサルタントのポジションや役割に大きな影響を及ぼすものであり、対応につき研究・準備する必要がある。

以上

DBO フローチャート (重要なイベント)





FIDIC SDC 報告

山下佳彦
(株)建設技術研究所 国際部長
技術研修委員会副委員長

日時：2006年9月24日(日) 9:00-12:00

場所：Intercontinental, Budapest, Room Panorama III

参加者：Chair: William Wallace,

Iksan Van der Putte, Rolf Saegesser, Howard Schermer

山下佳彦, 狩谷薫、春 公一郎：AJCE

Sustainable Development Committee(SDC)は、昨年の理事会で従来の SDTF(作業部会)から、委員会に格上げされた。今年の FIDIC 年次大会では、SDC 主催のワークショップが開催されなかったため、会議の内容は PSM を中心とした活動の現況と今後の取り組み方針の協議であった。

(1) SDC の TOR

- 1) PSM の普及と応用に務め、関係業界、学・協会、融資機関、NGO、国連機関、などに対し PSM が持続可能な開発に関する基準となるように働きかける
- 2) FIDIC PSM の市場性を高めるために、MA、関係機関等を教育するためのツールを開発する
- 3) コンサルティングエンジニア業界内部、発注者、利害関係者などに対し PSM を促進させるため、会議やワークショップを支援する
- 4) 実績や成功・失敗事例を共有し、持続可能な開発に関する知識、事業遂行、技術開発を促進させる
- 5) 第1)項の達成のため、系統的なコミュニケーションや教育プログラムを開発及び実施する
- 6) 第1)に関連し、将来に向けた持続性の実際的な応用のため、関係業界・団体、融資機関、NGO、国連機関の活動に適宜協力する

(2) SDC 活動の現況

- ・米国では Green Building Council が推進する LEED プログラム(建築物建設の環境への影響を定量的に評価する手法)が受け入れられつつあり、LEED による認証の動きがある。しかしながら、PSM は持続性の視点から事業のマネジメントに配慮しており、より広い視点から事業評価が可能なため、優位性がある。
- ・ John Boyd FIDIC 副会長と Wallace 委員長は、今年の2月オーストラリアで PSM セミナー(2日間)を開催し、好評であった。
- ・ 今後同様なセミナーを成功裏に開催するには、各 MA の支援や具体的な実施計画が必要となっている。現状では MA の間で PSM のメリットやニーズが理解されていないため、どのように MA と連携を図りつつ進めるかが課題となっている。

(3) PSM 関連活動の動向

- ・ 今後 FIDIC は PSM の促進と普及に向けどのような活動を展開すべきか、重要な課題である。米国協会 (ACEC) では、US 版の PSM の出版を検討している。
- ・ Wallace 委員長は、事業に持続性の配慮を行う上での 5 項目の重要事項を強調している。

我々の経済的成長は持続的ではない

今後 20 年以内に危機的状況に到達するであろう

持続性の達成は、大きな技術的挑戦であり、事業機会の創造になる

エンジニアは、これらの挑戦や事業機会に係わることに困難を覚えている

技術者以外のグループは、エンジニアを覚めた目で見ている (既往の手法に固執し、多くのよりよい代替案を見過ごしている)

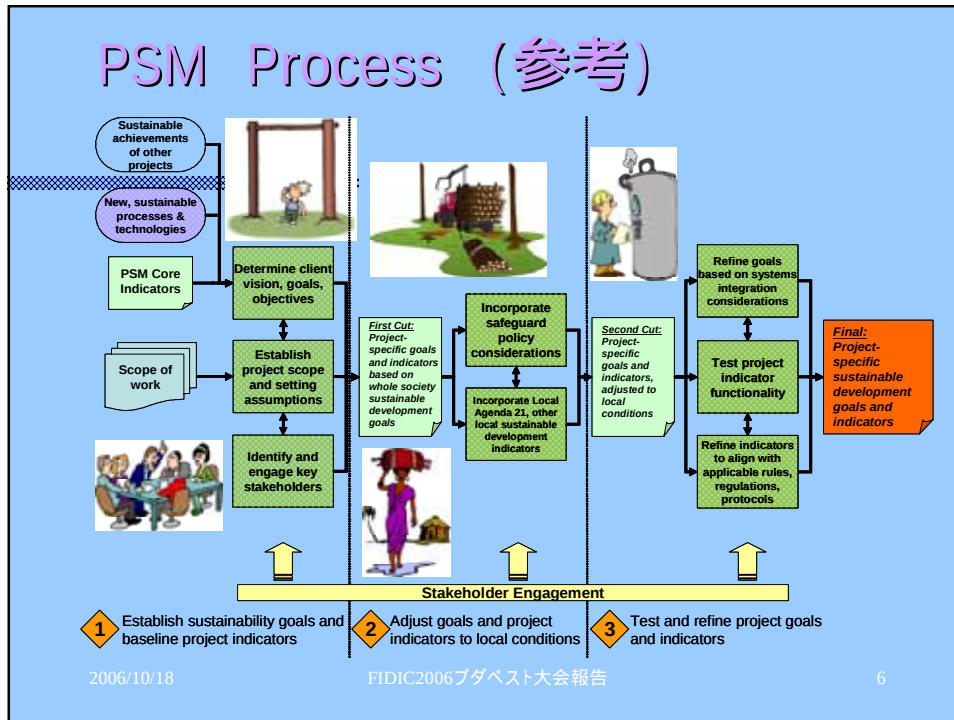
- ・ クライアントによる意志決定プロセス (Project Food Chain) において、コンサルティング企業が上位に位置するためのガイドやツールの作成
 - 持続性ゴールとメリットに関する枠組みと手順の策定 (PSM)
 - クライアントとのパートナーシップとリスク共有できる調達手順の策定
 - プロジェクトマネジメントを B/C が高い方法で、持続性の高い技術に応用する
 - 総合的な解決に結びつくデザインを創造可能なツールの開発
 - クライアントの持続性に関する課題を明らかにし、総合的な解決策を作成可能なツールの策定
 - 事業の持続性パフォーマンスを高め、維持可能なツールの策定
 - エンジニア企業経営層がクライアントの戦略と政策に関与

(4) 2007 年度に向けた活動方針

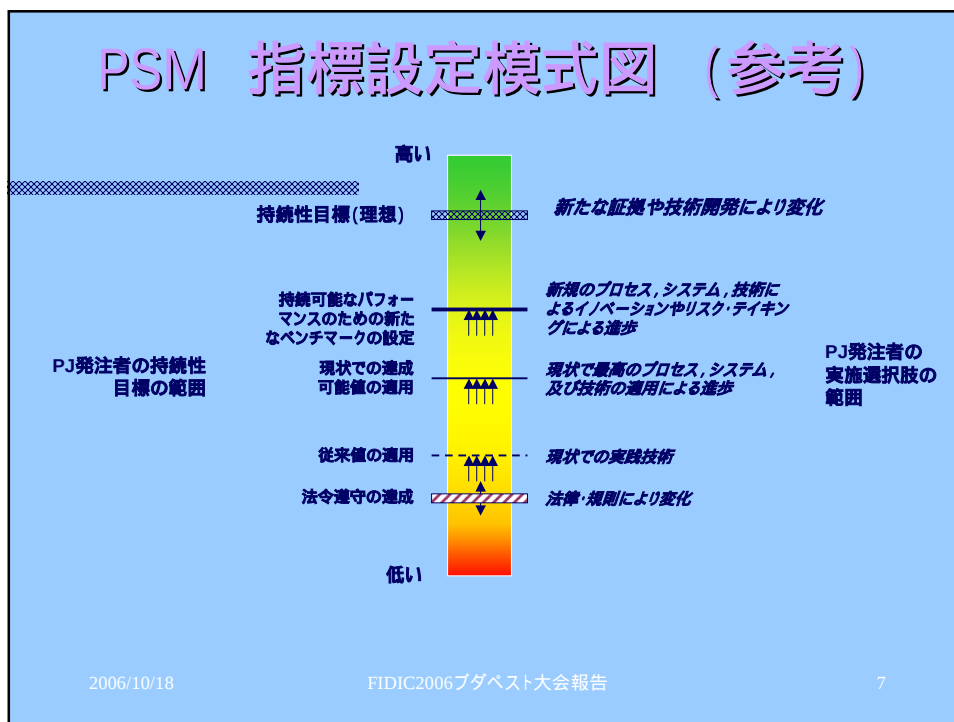
- ・ PSM の普及を促進させ、事例を追加して汎用性高める。この一環として、MA や連絡委員との連携を促進させる。
- ・ 今後展望される分野はエネルギーとイノベーションであるので、事例に加えるのが良い。シドニーオリンピックは、事例として望ましい。
- ・ PSM セミナーの企画・推進
- ・ FIDIC による PSM 認証実現に向けた活動の促進
- ・ SDC 委員の増員 (実際に活動できるメンバー)

以上

PSM Process (参考)



PSM 指標設定模式図 (参考)



ワークショップ6：社会資本整備におけるリスクと責任 (Risks and Responsibilities in Infrastructure Development)

藏重俊夫

(株) 日水コン 河川事業部副事業部長

国際活動委員会副委員長

日時：2006年9月27日 14:00-15:30

場所：インターコンチネンタルホテル Duna Boardroom

議長：John Roberts (USA)

話題提供者：Ewan MacGregor(UK), Michel Ray(France)

1. はじめに

プロジェクトの実施手法は著しく複雑化し、コンサルタントのリスク管理がしばしば適切でないケースがみられる。最近の経験や落とし穴の今日的な理解をレビューし、コンサルタントの投資家やプロジェクト実施機関などへのアドバイザーとしての役割など、我々が直面する課題についてラウンド・テーブル討論を実施する。

2. 議長による問題提起

近年、リスク配分をエンジニアに転嫁する傾向が強まり、コントラクト上の注意義務以上の配慮が求められており、また、DB から PPP まで幅広いプロジェクト方式の採用は情勢を一層複雑化している。リスク配分の原則は、プロジェクト遂行能力のある関係者間でリスク見合いで利益を配分することであり、最終的にリスクの適切な配分はプロジェクトの全体コストを低減させ、争議やクレームも発生も抑えることになる。

【オーナーの役割】

オーナー側で管理が可能なリスクもしくは管理が適切なリスク（革新的技術の導入に伴うリスクを含む）はオーナーが引き受けるべきである。さらに、保険でカバーできない範囲の品質保証は避けるべきである。

【リスク管理における保険会社の役割】

リスク管理の基本はリスクのある範囲を保険会社に転嫁することである。ただし、どんなに理想的な保険であっても、カバーされるリスクは限定的であることに留意が必要である。また、保険会社は、保険適用除外事項を増やす傾向にあり、保険料上限制度や DB 等に対する保険制度については今なお、明確な保険ポリシーがなく今後の課題とされる。

【コンサルタントのリスク管理】

社会資本整備に関わるコンサルタントにとって重要なことは、リスクを知ることである。そのうえで、コントラクト上の責任についてクライアントとの率直な対話により、クライアントにリスクやその管理方法について十分に理解を求めることが重要である。また、保険や損害賠償はリスク転嫁の一つの手法であるが、あくまで、コンサルタント側の技術や

管理の水準が高いとリスクは低減することを認識すべきである。

次に、受け入れがたいリスクを伴うクライアントやプロジェクトには近づかないこと、提供する品質や付加価値や想定されるリスクに見合うフィーを要求すること、品質の高い管理手法の導入、技術者のアサイン、要求される工程に十分な配慮、業務実施記録作成の継続、クライアントとの頻繁な連絡を行うことが重要である。さらに、問題発生の傾向を知ることが管理に有効である。

【まとめ】

- コンサルタントはリスク配分におけるネゴシエーション方法、コスト見積もり、管理手法について今後も十分に学ぶこと
- プロジェクトの新たな執行方式では、関係者間のリスクや責任の所在が不明瞭化する傾向にあり、多くの困難に直面するが、一方では大きなビジネス機会を与えるものである

2.1. ラウンド・テーブル討論

ラウンドテーブルは、議長の示した以下のテーマについて行われた。

- (1) オーナー側はどのようなリスクを保有すべきか？
- (2) リスク管理における保険会社の役割は何か？
- (3) コンサルタントは品質保証や損害賠償請求条項に応じられる条件は何か？
- (4) 技術革新に関するリスク配分はどのように考えるべきか？

(1) (2) は議長提示内容を支持する議論が行われ、(3) に関しては、コントラクターが実際に行っているリスク管理手法、及び、フィーとリスクの関係について FIDIC で検討すべきとの提言がなされた。(4) に関しては、コンサルタントは技術革新や新たなプロジェクト執行方式に対する積極的役割を担うべきであり、それに伴う不適切なリスク配分はインセンティブを失わせることになる。コンサルタントがそれら領域でリーダーシップを発揮して初めて様々な分野間での議論が深められるとの意見が提出された。そしてワークショップの結論として、FIDIC は革新的役割を担うコンサルタントの活用を促進する契約関係のドキュメントを検討し、業務実施に対する最善の方法や我々の役割の拡大を社会にコミットしていく活動を担う委員会の設立を求めたいと結んだ。

3. おわりに

DB や PFI など、我が国では、リスク管理の適切な議論抜きで、新たなプロジェクト方式の実施が先行する傾向にある。これらプロジェクトは世界的にみて多くのリスク問題を提起しているものの、我が国では基本的なリスク管理手法である瑕疵担保責任保険に関する十分な市場も形成されておらず、契約段階でのリスク配分に関するクライアントとの調整なども実際に行われることはない。今後、早急なリスク管理のビッグ・ピクチャーを整理していくことが重要と思われる。

以上

ワークショップ：Developing and Using Skill/技術・能力開発・向上と利用

2006年9月26日火曜 9:00 - 10:30

インターコンチネンタルホテルの Ballroom I

桜井 一

(株)日水コン 海外事業部業務部長
国際活動委員会幹事長・C B 分科会長

本ワークショップは各国からの参加者約 70 人を集めて行われた。チアーマンとして現 FIDIC 理事であるナイジェリアの Adebayo Adeola 氏が、サブとして、ハンガリーの Rev 氏とインドの Subhash 氏が議事進行を務めた。



チアーマンとサブ



我がラウンドテーブル

まず、チアーマンからキーノートとして下記概要が述べられた。

「近年、世界はコンサルタントエンジニア（CE）に対し、複雑かつ高度で多種多様な問題を投げかけて来ている。CE はそれらの要請に対し、専門家として革新的で高度さらに適切な問題解決技術とマネジメント能力を身に着ける必要がある。さらに下記のような変化に対しても CE は継続的な教育・能力向上の努力が必要である。

- * 官・民案件等の入札形態の変化や統合、国際化等による変化
- * 従来の技術だけを考えるのではなく、持続性、公正性、災害マネジメントや財務・人材マネジメントも考えなければならない業務内容の拡大・変化
- * 持続的会社運営のための、優秀なスタッフのリクルートと保持、スタッフの研修・継続的教育・能力向上プログラム、職務的魅力の向上、財務的持続性等」

チアーマンの説明後、下記 4 テーマについてのラウンドテーブルディスカッションが始まった。これらのテーマについて、FIDIC はどのような役割を果たすべきか等の提案をしてもらいたいとの要請が付け加えられた。

A) **能力開発**：現代 CE 業務に求められる能力内容の明確化と取得方法？

B) **継続資格**：卒業資格及び CE 資格・登録後、標準的な能力開発・評価が無い中で、FIDIC は、そのような能力評価・資格を出すことが良いのか、どのような内容にするか？

- C) 途上国 CE：発展途上国の CE は技術・経験不足等の理由により、入りたいプロジェクトに入れない事が多いが、どのようにすれば技術・経験を積ながら希望案件に入れるか？
- D) 新人 CE：有能スタッフのリクルートと保持に対して、どのような方法があり、どのように研修し、業務経験を蓄積させれば良いか？

各テーブルで上記 4 つの内 1 つのテーマについての議論を行った。我がテーブルは、オーストラリア、南ア、イタリア、インド、ハンガリー、フランス人、カナダ（次期 FIDIC 会長）各 1 名と、日本人 3 名の 10 人が 2 番目のテーマについて協議した。

各テーブルで論議概要は下記のように発表された。

A) 能力開発

- * CE は専門分野だけでなく時代にあった特殊な能力開発が必要
- * 技術だけでなく、プロジェクト全体をマネージするために、社会、財務、コマーシャル、スタッフ管理等の能力が必要
- * CE はクライアントに対し金銭的交渉をできる能力も必要
- * 大学でエンジニアリングだけでなく、財務や一般マネージメント方法を教えることが必要。その為には MA は大学と協力して、カリキュラムの検討さらに CE の継続教育のプログラムを検討することが必要
- * FIDIC はポリシーおよび教材を作成し、MA 及び各社は FIDIC の教材等を利用し、能力開発及び継続教育を推進することが必要

B) 継続資格

- * FIDIC は中国の大学で中国コンサルタント協会と協力して CE プログラム教育を実施し、そのプログラムを終了した者に終了書を与えている
- * 世界統一した資格を出す事は、各国の CE 状況が異なるので難しい
- * FIDIC は資格を出すよりもポリシーや CE 資格に必要な教材を作成することが必要
- * FIDIC の考え方及び教材を基に MA が教育実施を行うことが必要で、それらを継続的教育資格にするかは各 MA 等で検討
- * FIDIC はある CE 能力レベルを決め登録制度を実施することは可能で、長期将来的には FIDIC 登録者への FIDIC 教育・試験を通じて FIDIC 資格を与えることも可能
- * FIDIC は技術者だけでなく、エコノミストや法律家をもっと取りこみ、彼らのノーハウを CE に移転し、ソフト面の資格を取得させることも必要

C) 途上国 CE

- * 途上国の CE 同士がもっと協力して、教育・発展の為に努力する必要がある、その国の MA はそれらをリードと支援する事が求められる
- * 先進国の CE 会社は途上国に事務所を造り、業務を実施すると共に途上国 CE の教育・発展に努力してもらいたい
- * 途上国の CE 発展の為には、同国政府が CE 発展の必要性を認知し、関連する優遇制度

をすることが必要

- * FIDIC は途上国の MA への指導・協力だけでなく、同国政府機関に対しての働きかけをしてもらいたい

D) 新人 CE

- * CE の魅力を向上させるためには、CE の社会的地位・存在感の向上と給料を上げる事が必要
- * QBS を徹底することにより技術の向上がはかれ、魅力的な業界となる
- * 各国 CE はその文化を尊重し、新しい物だけでなく古い物を大切に出きる幅広い技術者となることにより、魅力有る職種となる
- * CE は個人の発展も重要だが、最適な後継者を見付け、教育し、Knowledge の引継ぎを考え、実施なくてはならない
- * 各新人 CE に適した将来への発展プログラムを作成・実施し、常に自己プレッシャーを持つような教育をする必要がある
- * FIDIC は新人教育のためのポリシーやガイドラインの作成が必要



本ワークショップでは、上記4つのテーマに関し FIDIC としてどのように対応・今後努力すれば良いかの提案を求めていたが、なかなか求めていた議論・結果は出なかったようである。しかし、現在、世界の CE が抱えている問題が各テーブルで論議されたことは、各参加者の参考となったようである。特に、共通して認知されたことは、急速に大きく変化する業務形態や複雑化する業務内容に対する緊急対応、さらに魅力の無くなりつつある CE 業界の復活についての課題で、危機感とも言える議論であった。

最後に、今回の大会で「コンサルタント」は「Trusted Advisor」と一部で呼ばれた。信頼されるアドバイザーとは、技術的な能力はもとより、公正的で、何事でも相談できる信頼性がある全体のマネジメントができるコンサルタントのようである。全ての CE がこのようなスーパーマンにはなれないが、個人として、会社としての目標とはなる。これらは、わが国でも共通した課題であり、今後 AJCE 等での議論が望まれる。

以上



Round Table Discussion

C) 途上国CE発展:

- * CE同士の協力発展努力
- * 先進国CE技術移転
- * FIDICの同国政府説得

E) 新人CEリクルートと保持:

- * CE魅力の向上 → 社会的地位と報酬
- * QBSの徹底、技術革新
- * 継承者を見付け教育、引継ぎ・伝承
- * FIDICはポリシー、ガイドライン作成





Budapest, Hungary -Sept 24-27, 2006



おわりに

- ◆ CONSULTING ENGINEER : CE
- ◆ TRUSTED ADVISOR

↓

- ◆ 能力(技術とコマーシャル等)
+ 公正 + 信頼
+ 総合マネジメント能力

↓

- ◆ 自己発展 + 会社発展
ハーモニー →





Budapest, Hungary -Sept 24-27, 2006

藤日水コン 桜井 一

ワークショップ8：瑕疵責任と保険 (Liability and Insurance)

藏重俊夫

(株) 日水コン 河川事業部副事業部長

国際活動委員会副委員長

日時：2006年9月27日 11:00-12:30

場所：インターコンチネンタルホテル Ballroom

議長：Adam Thornton (New Zealand)

話題提供者：Jacques Robert(France), Martin Hohberg(Switzerland)

1. はじめに

コンサルタントの高品質・革新的ソリューションの提案能力は非現実的な賠償責任と限定的保険支払額によって脅威にさらされている。最適なリスク管理のあり方や予想を超える責務に対する取り組みについての問題提起が行われ、今後の課題について参加者によるラウンド・テーブル討論を実施する。

2. 会議の概要

1.1. 議長による問題提起

プロジェクトは益々高度化し、複雑さと革新性が求められる一方、消費者保護や性能適合性要件により、我々の成果は精査され、顧客や社会の失敗に対する寛容性も失われつつある。また、リスク・責務・保険の管理や回避は現在のマーケットを対象とする限り、不可避の課題になっており、リスクの効果的な管理なしに利益確保も生き残りもあり得ない状況といえる。

【基本的問題点】

- ・ 契約書の問題として、過大な品質保証（現物保証：warranty、金額保証：guarantee）や不合理な瑕疵責任、不明瞭な仕様書、妥当性のないリスク配分、不合理な予算と工程など、今なお顧客サイドの法律アドバイザーにより課されている。特に、JV や PPP など新たな業務形態でのリスク配分では問題が多い。
- ・ 瑕疵責任保険（Professional Indemnity Insurance or Professional Liability Insurance）に関しては、妥当な商品が用意されていない
- ・ 顧客サイドは裁判志向が今なお強い
- ・ 技術への過度な信奉、現場条件の問題（軟弱地盤や過敏な住民）、複雑化した工事発注手続きや調達手法など、業務自体の複雑さが拡大している

【保険対象の問題点】

- ・ 保険の対象となるのは基本的に善意の不注意に起因する瑕疵であり、提案した技術的解決策の欠陥、設計指針に対する不適合、顧客の意志決定に影響する積算ミス、コントラクターのクレームとなるような入札図書や手続き設定上の欠陥、建設事業発注の遅延につながる施工計画作成の遅延、不十分な工事管理などが要因の場合である。
- ・ NZ では、保険の対象外となるリスクは、アスベストリスク、甚大な環境汚染リスク、懲罰に帰するような損害、健康・衛生確保上の罰金、民法や標準約款の範囲を越える責務等である。

【NZでのリスク管理に対する対応の現状】

- ・ 保険のプレミアはプロジェクト・フィーの2～4%程度である（西欧では12%）

- NZでは全ての会員企業は最低限の保険に加入することが要求される。
- 多くの国と同様、NZも品質保証の制度化の動きに直面している。
- JVプロジェクト等における Joint and Several Liability に関する訴訟の増加
- 不合理な契約に関する常態化した顧客やその法律顧問との争議
- 中央政府や地方政府については、契約約款の協会案の普及に成功しつつある
- NZでは、協会主導で技術者による保険会社が設立され、技術者サイドに立った運営がなされている。そして、その結果、リスク管理について多くの支援が得られ、また、（自社防御のため）他社の品質上の欠陥を指摘するような傾向が押さえられてきた。

1.2. ラウンド・テーブル討論

ラウンド・テーブル討論が以下のようなテーマについて実施された。

CE企業はリスク事情を熟知しているか？

各国でリスク事情が異なるが、FIDIC が対処すべき共通する部分はあるか？

上限のない責務問題に世界的に対処する価値はあるか？

保険業界との意義ある対話を確保する最適な方法は何か？

FIDIC として保険対象外リスクについて何か対応すべきか？

各テーブルにて約 40 分の議論がなされた結果、 は一部の企業を除き概ね YES であり、各国の事情を検討し、クライアント用教材、リスク管理に関する実際的なガイドラインづくりの提案があった。 は各国で様々な事情があり、一般的政策は共通化しうるが、個別事項は各国で異なる対応となる。特に文化的背景の違いに配慮が重要となる。しかしながら共通する一般事項に関してのガイドラインは各国での個別ガイド作りに有益であり、FIDIC ガイドづくりを進めるべきとの見解が示された。 の反応は YES であった。FIDIC/EFCA はこのような困難な問題に対処し、顧客への影響力を保持すべきであるとの意見であった。 は複雑な保険システムや各国の保険業界の成熟度により一般的な答えはないとの意見であり、各国へのアンケート実施の提案もあった。

の答えは YES であるが、その定義が必要という意見であった。具体の現場では、保険対象と対象外を顧客に説明し、リスク引き受けの範囲の合意が必要との意見が示された。

その他、報告者の参加したテーブルで得られた興味深いデータを示せば、瑕疵責任期間は 10 年が多く（日本、イタリア、フランス、ハンガリー）、リスク・キャップは殆どの国で明確でなく、基本的に無制限瑕疵責任が課されるとみなされる国が殆どであったが、NZ は責任期間 6 年、上限責任がフィーの 6 倍ということで、リスク管理先進国といえる。

2. おわりに

我が国の標準契約約款は、上記の通り大変厳しいが、訴訟社会でないことが幸いし、フィーに対する賠償額そのものは西欧企業に比べてオーダーが異なる（パリ大会での RMF 報告によれば、日本 0.1 以下、デンマーク 20、南ア 0.7、UK 3.8）。しかしながら、プロジェクト調達手法が変化し PPP や DB 等の普及が進んだ段階では、Joint and Several Liability など、企業間での係争が増加する可能性も高く、従前の公共調達にしても消費者保護の観点等から瑕疵責任追及が現時点のレベルにとどまるかどうかは余談を許さない。そのため、日本型リスク回避策の研究が重要であることは当然として、社会での一定のプレゼンスを確保するにはリスク・テーカーとしての立場をあえて選択していく方向も議論されるべきであろう。

以上

Work Shop 9: Quality Procurement

河上 英二

(株)建設技術研究所 経営企画部次長

国際活動委員会 QBS 分科会長

1. 日時、場所

2006年9月26日(火) 14:00~15:30

Ballroom ,Hotel Intercontinental

及び

2006年9月27日(水) 9:00~11:00

Workshop Reports

2. 報告概要

このワークショップは、まず議長である Gamble 氏よりカナダは QCBS であり、QBS 導入に向けた検討を進めている、ここでは QBS の必要性とともに、FIDIC 及び会員企業として QBS 導入に向けてどのように取組んでゆくべきか、幾つかの問題提起がなされた。その後、グループに分かれて、ラウンドテーブルによる討論を行い、提案事項を取りまとめた。

プレゼンテーション

タイトル: "How can professional services be acquired for the best results?"

発表者: John Gamble(Association of Consulting Engineers of Canada)

【概要】 どうすれば最良の成果のためのプロフェッショナルサービスを獲得することができるか?

プレゼンテーションでは、“quality とは何か?”、“誰が quality を決めるのか?”、“我々はどうやって quality を提供するか?”、“QCBS、低い価格とは?”、“クライアントにとって QBS のメリットは何か?”、“QBS に向かった障害は?”、“我々はどうやってその障害を克服するか?”、“FIDIC は会員に何ができるか?”、“我々に必要なツールは?”、“その相手は?”、“我々は何ができるか?” など自問、自答の形式で説明がなされた。この説明の中の FIDIC ができることとして、以下を示している。

- ・ QBS の立場に立った強い主張
- ・ 会員のための情報・経験などの共有に努めること
- ・ 最良の実務ガイドのようなツールを開発すること
- ・ QBS を支持する機関との協働
- ・ QBS を採用しているクライアントの認識と理解
- ・ トレーニングの提供(会員、またクライアント)
- ・ 会員への服務規程の検討

ラウンドテーブル：FIDIC として QBS を推進するための提案を討論

ワークショップの中では、各国の現状やその説明に関する意見の交換を通じて、提案事項を取りまとめた。

主なものとして、WS の結果報告で以下のような方策が報告された。

- ・ FIDIC/ECFA はその会員に、積極的に訴えることや方法を提供すること
- ・ 会員と企業との情報交換の促進
- ・ QBS の成功例の発展的研究
- ・ クライアントの能力開発支援
- ・ TOR の作成や基準、評価項目の確立に対する教育
- ・ 実施に向けての戦略の立案



提案の内容は、これまで検討していた事項であり、特に目新しい提案ではなかったとの印象です。継続して会員への QBS の認識を深めることや、クライアントに QBS の必要性を提案することは重要なことですが、各国の選定に関する問題点を指摘する意見が多く、QBS へのプロセスとしては、各国の現状から出てくる問題点を踏まえて、共通の課題としてどうするかといった議論のほうが具体化しやすいのではと感じた。

コンサルタントの選定問題に関しては、AJCE にて昨年実施した先進国の選定に関する現状調査、また日本でのプロポーザル方式や総合評価方式（QCBS）を踏まえて、特に QCBS における適切な運用に向けた改善提案といったものを WS 等で討論したかったのですが、主題とマッチしなかったのか実現できませんでした。しかし、今大会のどのようなセッションにおいても必ず選定問題との関わりがコメントされ、関心の高いテーマと考えます。現状では、部分的に QBS は実施されているものの、米国を除いては開発銀行はじめほとんどが QCBS との印象を受けます。このような現実をしっかりと把握し（各国の現状や問題点、対応策など）、現実的な解決を図ることが必要と考えます。

以上

BST Seminar Next generation information management 報告

赤坂和俊

(株)日水コン 東京下水道事業部 3 部 1 課

会議名称 : BST Seminar Next generation information management

開催日時 : 2006 年 9 月 26 日 11:00-13:30

場 所 : Ballroom , Floor 1 , Intercontinental Hotel

議 長 : P.G.Boswell

セミナー概要

BST Seminar Next generation information management は 9 月 26 日の 16:00-17:30 に
行われた。

BST Global における次世代の情報マネジメント (Next generation information
management) と題してのセミナーであった。

(1) BST Global について

まず、BST Global は FIDIC ブダペスト 2006 大会 (Where the roads meet) の公式スポンサーである。

会社の設立は、1970 年代 (30 年以上) で、Professional Services Organizations をターゲットにした統合ビジネス用ソフトとサービス対策のプロバイダーである。

また、2002 年には市販ソフトの Microsoft Project 2002 とのシームレス統合を可能にしたことで、Microsoft から Global 賞を受賞している。

エンドユーザは、世界中で 7 万 5000 人以上 (6 大陸、37 の国)、日本では先月まで 1 社が契約していたが、現在契約が終了しているそうである。

(2) システムについて

システムは、100% W E B (インターネット) によるサービスを実施しており、インターネットが接続されていれば、いつでも、どこでもアクセス可能なソフトウェアである。従って、リアルタイムで情報を入手可能である。

システムの構築は、クライアントのニーズに対応してカスタマイズされる。

システムには経営資源利用計画 (enterprise resource planning)、クライアント関係管理 (client relationship management)、企業プロジェクト管理 (enterprise project management) やビジネス情報 (business intelligence) 等を含んでおり、多くの関連企業間、複数通貨を用いたプロジェクトなどに適している。

プロジェクト全体の lifecycle を考慮したプロジェクト管理についても分析・評価が可能なシステムである。

以上



FIDICブダペスト報告会 - ASPAC 理事会

廣谷彰彦
(株)オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長
AJCE会長

会議開催日時 : 26 September 2006 (火)、16:00~18:00

会議開催場所 : ブダペシュト:ホテル・インターコンチネンタル会議室

参加者 : コク・キン・ミン議長

シェ(中国)、ソートン(NZ: 代理○○)、廣谷ならびに内村副会長
パデラ FIDIC 会長、

議 題 :

1. 開会宣言ならびに出席者紹介・欠席者陳謝
 - 一部に、ビザが取得できなかった事情があった模様。
2. 2005年理事会の議事録報告ならびに内容・進捗確認
 - TCDPAP は、協同組織的活動に取り入れる。
 - TCDPAP の年次総会にあわせて、ASPAC の会合を共同開催する。
 - 各 MA の活動報告
報告があった MA に関する紹介。
 - 次回 TCDPAP 総会は、ラホール(パキスタン)で、3月19~21日。

以上



FIDIC 2006 ブダペスト大会報告
ASPAC GAM

宮本 正史
(株)東京設計事務所 取締役 海外事業部長
理事・国際活動委員会委員長

会議名：ASPAC GAM

日時：9月27日、11:30～12:30

場所：パノラマ1

議長：Kok Kin Min (シンガポール)

Kok Kin Min 議長から議題が示され、時間が限られているため要領よく議事進行を図りたいとの要請があり、会議が開始された。議題および結果は以下の通りである。

1. 2005年北京大会 ASPAC GAM 議事録

意義なく承認された。

2. 前記議事録からの議題

議長から2007年のTCDPAPがパキスタンのラホールで3月28日～30日に開催されることが報告された。パキスタン代表からラホールは人口800万人の歴史ある都市であり、皆様の参加をお待ちしているとの紹介があった。

3. 理事の選挙、議長の選出

現在の5理事のうち廣谷理事を除く4名の理事が任期満了となり、改選となった。立候補者は以下の5名であり、ASPACの定款では理事は5名以上となっていることから、全員を当選とする提案があり、異議なく承認された。

新理事

S. P. Castro	フィリピン協会前会長、任期 2006～2009
Adam Thornton	ニュージーランド協会前会長、任期延期～2007
K. K. Kapila	インド、任期 2006～2009
Yap Kok Ming	マレーシア、任期 2006～2009
Karamat Ulla Chaudry	パキスタン、任期 2006～2009

議長は理事のなかから選出されることとなっており、立候補者は廣谷氏、Kapila 氏、Chaudry 氏の3名であった。各国2票の投票があり、僅差で廣谷氏が選出された。廣谷氏の任期は2009年までとなる(理事も)。

4. カントリー・レポート

議長からカントリー・レポートが事前に提出されたのは、日本、マレーシア、バングラディシュ、インド、フィリッピン、シンガポールの6カ国であったことと、それぞれの内容の項目のみが報告された。

5. FIDIC、中国協会、精華大学の調印式

FIDICと中国協会の協力により精華大学に設けられたCE教育センターの協定書の調印が、突然行われた。

6. 豪州協会、インド協会からの発表

豪州協会のMotto女史から同協会が行っている、優秀なプロジェクトの表彰制度である「Design Excellence Awards」、インド協会のKapila氏からコンサルタント選定の基準について「Evaluation Criteria for the Award of Construction and Consultancy Contract」のプレゼンテーションがあった。後者では、コンサルタント選定ではQCBSがベストな方法であり、FIDICはこのことを検討すべきとの説明があった。

最後に議長の要請により廣谷新議長から、今後ASPACのプレゼンスを高めるために各国のさらなる貢献を期待する旨挨拶があり、閉会となった。

以上

EFCA General Assembly Meeting

林 幸伸
日本工営株式会社
技術研修委員会副委員長

1. 概要

9月27日(11:30-13:00)のEFCA総会に参加した。総会では、Mr. Yann Leblais(仏)を議長として、役員選出や規約変更などについて話し合われていたが、ここではEFCAの概要と活動内容について報告する。

2. EFCAとは

- (1) EFCA : European Federation of Engineering Consultancy Associations (1992年設立)
- (2) 規模 : 参加国数(27カ国) 会員社数(約10,000社) 会員社従業員数(約200,000人) 会員社売上高(約260億ユーロ)
- (3) 基本理念
「コンサルティングエンジニアやコンサルタントはEUの開発政策において重要な役割を果たすものである。」
- (4) EFCAのコンサルタント業界への支援内容(ロビー活動)
 - 適切な関連法規・制度の維持(appropriate legislation)
 - 公平なビジネス環境の維持(fair business conditions)
 - 効率的なコンサルタント雇用手続きの確保(efficient selection and award procedures in the tendering process)
 - 適切な情報源(adequate information sources)
 - 発展的プログラムの公開(proper publicity for evolving programmes)
- (5) ポジションペーパー(代表例)
 - July 2006 : EFCA Position Paper on the award of PPPs for project delivery (PPP調達)
 - July 2006 : Interpretation of the Public Procurement Directive (2004/18): EFCA opinion on the evaluation of the proposed project team (調達)
 - February 2006 : Services Directive (COM(2004)2) - proposed EFCA amendment article 27: Professional insurance and guarantees (補償・保険)
 - May 2005 : Services Directive (COM(2004)2) - EFCA Position (業務)
 - July 2004 : EFCA response to the Commission consultation on its Green Paper on Public-Private Partnerships and Community Law on contracts and Concessions (PPP調達)
 - June 2003 : Business Integrity (商道德)
 - May 2003 : EFCA Position on the regulation of engineering services (業務)
 - January 2001 : The engineering consultant and the architect, partners in the construction sector (業務)

3. 日本の課題

EFCAはEUの経済連携の枠組の中での統一的活動が一つの原動力となっているものと考えられる。アジア・大洋州には域内組織としてASPACがあるが、EFCAの活発な活動は参考に値するものと感じた。

以上

GAMA Africa Networking Seminar 報告

竹村陽一

個人賛助会員

技術研修委員会元副委員長

GAMA はアフリカ地域の各国協会の連合体である。今大会のアフリカからの参加は 10 カ国、52 人（同伴者のぞく）で、多いのは南アフリカ 20 人、ナイジェリア 18 人の 2 カ国、残りの国からは各国数人の参加者であった。

GAMA Task-force はアディヨラ・バイヨ（ナイジェリア）を委員長としパトットリク・バトンビア（ウガンダ）、ピリー・グラハム（南アフリカ）のアフリカ出身者と非アフリカ国から 2 人がでて 5 人の委員会である。2006 年北京大会で全アフリカの CE を結集する目標で GAMA 組織の強化策を検討することになった。公用語は英仏の 2 カ国語とする。

GAMA Africa Networking Seminar は本年 7 月に出された GAMA Task-force の「行動計画」（A4 版 5 枚）を参加者に配布して行われた。

司会はパトットリク（ウガンダ）が務め、ピリー（南アフリカ）は記録係を務めた。パトットリクは GAMA 会長である。11:45 の開始時は 20 数人の参加者であったが、最終は 30 人近くになった。FIDIC EC からは J. Boyd が最初に出席し、後に J. Diaz Padilla と交代した。

「行動計画」は以下の 8 項目からなる。

1. GAMA Structure（組織）
2. GAMA Secretariat（事務局）
3. Benchmarks for MA（各国協会のための指標）
4. Capacity Building and Utilization Strategies
5. Use of Existing Assets of FIDIC and GAMA
6. Database Development
7. Specific Procurement Policies
8. Cooperation among African Consultants

各項目は Recommendations と Action Plans から成るので、簡潔で扱い易い。

「行動計画」の説明はアディヨラ（ナイジェリア）が行った。彼は GAMA の FIDIC EC 連絡係でもある。

これに先立って司会者パトットリクが、この「行動計画」は本年 4 月に FIDIC および

MAs によって承認、決定したものであり、議論するものではなく周知をはかり、行動実行に向かって、協力関係を築くためのものであるが、本日の会議は非公式なものであると宣言した。

アディヨラの説明は 12:30 に終わった。

これらのやりとりを通じて感じられたアフリカ CE の諸問題は次のようなものである。

- ・ アフリカは多様であり、言語は英仏のほかにスペイン、ポルトガル語圏もあり、コミュニケーションが大変である。従って、統一行動をとることも更に困難である。
- ・ 各国協会の連合体を効果的に運営していくために、評議会（各協会から会長を含む 2 名選出）と理事会（7 名定員）の意思決定・指導機関とフルタイム事務局を設置しようとするも、財政上の問題が大きい。
- ・ 各国政府も国際機関もアフリカ CE の能力に信頼を置いていないふしがある。外国 CE への依存からどう脱却できるか。

自由討論の時間では、運営資金を開発銀行から引き出す案と今後の GAMA 開催国と開催時期をめぐって議論が行われた。2007 ボスアナ、2008 チュニジアが決まっているが、2007 ボスアナは 3 月か 8 月かで意見が分かれた。3 月はマラリアの危険が高い、8 月は FIDIC 大会に近いと議論が交わされた。2009 以降は南アフリカとモロッコが有力である。

最後に J. Diaz Padilla FIDIC 会長が発言を求め、北京大会のあと Task-force が「行動計画」を取りまとめたことを評価し、ASPAC が廣谷新会長のもとに 2007.3 にパキスタンのラホールで大会開催を決定したことにふれ、今後速やかに指導体制を確立して、強力なる実行に踏み出すよう期待と要望を表明し、13:00 に閉会した。

日本から遠いアフリカのことであるが、従来から欧州に庭と称されてきたこの地域に我われはどう対処して行けばよいのだろうか？

建設業界では地道に活動続ける企業もあり、ODA もかなりの資金がつぎ込まれてきたが、最近是中国の進出などが派手に取り上げられて、日本の存在がかげ薄いものとなってきた現状は心もとないと言わざるを得ない。大きな金を使うことに専心するだけでなく、将来の国益を見据えた小さな金の使うことの意義を認識するよう、国内問題にのみとじこもりがちな、わが国政治家の奮起を望みたい。

以上

FIDIC 年次総会（GAM）報告

内村 好

(株)建設技術研究所 常務取締役九州支社長

副会長・総務財政委員会委員長

総会の概要

大会最終日の9月27日（水）午後、年次総会（GAM）が開催された。今年度は理事の改選もなく、大きな懸案事項もなかったため議事は順調に審議された。日本の代表は廣谷、内村、宮本の3名（票）である（納入会費によって協会の票数が異なる。最大4票）。

議事の要約（主なもの）

出席国の確認（参加64国の8割程度が出席）、Padilla 会長（メキシコ）の開会挨拶と前回総会の議事録承認ののち議事に入った。

1）事業活動、会計報告の承認

05-06 年事業計画および会計報告が承認された。05 年の収入は 2174 千スイス Fr（約 21 億円）、支出が 2081 千スイス Fr（約 20 億円）である。また 06-08 の三カ年の事業計画ならびに次年度予算も承認された。FIDIC 会費は加盟協会の従業員一人当たり 3.10 スイス Fr（300 円）で変更しない。

2）会員協会の承認

75 番目の会員協会として Mali 国の OICM が承認された。

その他、会費滞納による賛助会員等の除名ならびに新規の賛助会員等が承認された。

3）定款、細則の修正

文言の修正ならびに理事選出の手続きに関する定款と細則の改定が承認された。

4）会員協会の責務

連盟に負債が生じた場合、その負債は加盟協会が過去5年間に支払った平均の会費に応じて負担することが確認された。

5）次期会長の選出

次期会長としてカナダの John Boyd 氏が選出された。

6）FIDIC2010 年大会開催地

インドと韓国が立候補したが、2013 年の FIDIC100 周年大会を欧州で開催することを前提として、2012 年に韓国を推薦することで 2010 年大会はインドに決定（07 年シンガポール、08 年ケベック、09 年ロンドン）。

7）その他

FIDIC の YP マネジメントプログラム卒業者の表彰が行われ、来年のシンガポール大会の紹介の後、総会は閉会した。

以上



FIDIC-YP S/C Meeting 報告

秋永薫児

(株)日水コン 下水事業開発部 担当部長
技術研修委員会 技術研修推進分科会幹事
国際活動委員会 IFI 分科会員・YPグループリーダー

会議名称：FIDIC-YPF Steering Committee Meeting

開催日時：2006年9月27日 11:00-13:30

場所：Intercontinental Hotel 会議室の一角→FIDICの控え室→レストラン

(予約されていなかったため)

議長：Richard Stump (米国)

会議概要

新旧メンバーによる Steering Committee(S/C) meeting では、午後に予定されている YP-Open Forum の内容の確認、昨年の活動で実行できたこととできなかったことの確認を行った。昨年は FIDIC - YPF のことを理解するのに時間がかかり、スタートが遅れたこと、互いに会うことなく、それぞれ忙しい時間を縫って作業をしてきたことなど、新議長が活動実態を新しいメンバーに説明した。その後、Skype を用いた毎月の会議について、説明がされたが、会社や国によっては Skype の使用が制限されていることがわかり、対策を講じることとなった。

来年の FIDIC 大会 (シンガポール) へ話題が移り、YP の行事を最終日ではなく、会期の真中に持っていき、YP 用のワークショップの開催に努力することが話し合われた。YP にとって FIDIC 内に法律家や経済分析家などがたくさんいることに違和感がある、という意見から、基本はエンジニアであることを明確に打ち出そうということになった。FIDIC 参加のシニアと YP とは根本的に異なる集団であることから、昨年実行できなかったエンジニアリングコンペ (例えば、仮想都市建設) をベースにシンガポールでは新しい試みを行うことになり、シンガポールのメンバーに期待が寄せられた。今回、YP の Site Visit を実現したが、シンガポールには Night Zoo があるとのことで、これらの Social なイベントも視野に入れた Site Visit やネットワーク会議を実現させたいと希望した。さらに、他の組織の YP グループの事例から、FIDIC-YP の活動を支えてくれるスポンサーが見つからないかとの問いかけに、シンガポールのメンバーが検討することになった。昨年の活動で構築した MA-YPF との連絡を強化するとともに、S/C の連絡を密にすることを誓った。

日本に於ける課題、提案

今年は S/C に日本人が加わらなかったことで、FIDIC-YPF と AJCE に距離が生じると危惧される。Skype によるチャット型の会議は 1 時間であるが、集中力、英語力と入力のスPEEDが要求される。会議は GMT7:00 から行われるので、日本時間では午後 4 時になる。私は、会社で Skype が使用できないことから、午後から半休を取って自宅で会議に参加したが、日本の場合、若手は休みが取りにくい、作業の調整が難しいなどの問題が付きまとうため、そういう「やりくり能力」と「周りの協力」が非常に大事であると考え。ここでの活動は世界でのネットワークを大きく広げることになり、トレーニングプログラムとしてのみならず、将来のビジネスチャンスにもつながる可能性がある。ひとまずはトレーニングとしてチャレンジしてみたいかがでしょうか。

Steering Committee Member

2004/2005	
Kunji Akinaga(Chair), Yoshihisa Asada, Yuji Furukata	Japan
Anne West	Australia
Clint Koopman	South Africa

2005/2006		2006/2007	
Kunji Akinaga (Chair)	Japan		
Richard Stump(Co-chair)	USA	Richard Stump (Chair)	USA
Khelane Ephraim Ndwandwe	South Africa	Khelane Ephraim Ndwandwe	South Africa
Tracey Gargett	Australia	Tracey Gargett	Australia
Diracca Michela	Italy	Diracca Michela	Italy
Yoshihisa Asada	Japan	Nader Shokoufi	Iran
Birgit Garstad Larsen	Norway	Saul Martinez	Australia
Annette Sweeney	New Zealand	Xie Yujian	China
Sarah Royse	UK	Alex Eyquem	UK
Geogo Gyovani	Hungary	Han Toh Lin	Singapore

Steering Committee の活動

FIDIC 大会	活動内容
～コペンハーゲン (2004 年 9 月)	- 大会初日に YP 活動に関するアンケート調査(参加者対象)を行った - 大会期間中に会議を開催し、Executive Committee から Steering Committee(S/C)への組織変更が行われた。
～北京 (2005 年 9 月)	- S/C メンバーを公募 (FIDIC ホームページ掲載および YPMTP への直接募集) し、候補者選任した。 - Open Forum を開催し、FIDIC-YPF の説明、活動内容 (ポスター掲示) 質疑応答等を行った。 - Network Lunch をセットし、Net Discussion Forum の紹介とアクセス手順の説明、AJCE-YPF の活動紹介を行った。 - YP-GAM において、年間活動報告、オランダ、英国、南アフリカの MA-YP の活動紹介、新しい S/C メンバー承認を行った。
～ブダペスト (2006 年 9 月)	- YP 活動に関する調査(MA 対象)を行い、各 YP 代表者との連絡によって MA-YPF とのネットワークを構築した。 - S/C の新旧交代に伴うメンバー公募と選任を行った。S/C meeting 開催。 - YPF 議長による Future Leaders Workshop と YP Open Forum の統合同会、運営を行い、YPMTP と YPF の融合を果たした。 - YP Open Forum において、新 S/C メンバー紹介、AJCE-YPF 活動紹介と質疑応答、FIDIC 大会評価、Net Discussion Forum の運営について討議、今後の活動などについての協議を行った。 - Site Visit を実現し、地下鉄 4 号線の現場事務所に行き、計画概要説明と工事現場見学 (参加者約 20 名) を行った。

Young Professionals Management Training Program 2006

株式会社長大 広島支店技術部 主任
手塚 誠

1. YPMTP とは？

YPMTP(Young Professionals Management Training Program)は、若手建設技術コンサルタントのためのマネジメントに関する国際研修プログラムです。プログラムの運営は、FIDIC と DIEU（デンマークの人材育成会社）が連携して行っており、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア、アジアなどから 30 名の参加がありました。私は日本から唯一の参加でした。

2. 研修プログラムの内容

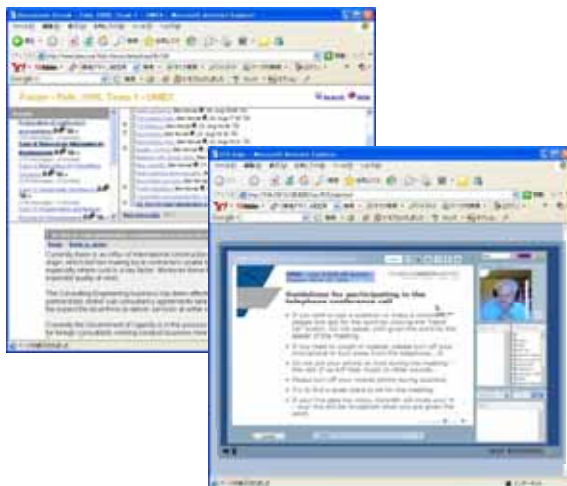
研修プログラムは Step1 Web 上でのディベートと Step2 Budapest でのディベートと発表の 2 つのステップで構成されていました。ファシリテーターの進行や助言者によるサポートはあるものの、極めて参加者の自主性を重視したプログラムでした。

STEP1 Web 上でのディベート(7 ヶ月間)

- Web 上の仮想キャンパスで Case1～4 の 4 つのテーマについて議論
- 各テーマの立上げ、中間、まとめの 3 回はテレビ会議で議論

STEP2 Budapest でのディベートと発表

- FIDIC 大会の 3 日前に集合し、Web 上でのディベートのまとめと将来に向けた提言について議論
- FIDIC 大会最終日に研修の成果を発表



Web 上でのディベート



Budapest でのディベートと発表

3. ディベートの内容

ディベートの要点は以下のとおりです。

Case1 組織構造と人材育成

- ・ 分野別、マトリクス、フレキシブルなどの組織構造を業務分野の幅広さ、会社やプロジェクトの規模、経済状況に応じて組合せて組織を形成。
- ・ 技術者をアウトソーシング（嘱託を含め）する傾向にあり、技術や情報の伝達・継承が課題。また、経済が下降している国では、人材育成への投資が不足。

Case2 所有構造

- ・ 参加企業の多くはパートナーシップや内部保有で、上場企業は大企業に限られる。
- ・ 内部保有は社員のモチベーション向上に寄与する。上場企業は資金確保の面で有利だが、株主優先の経営、吸収・合併の懸念などのデメリットが多い。

Case3 市場

- ・ Website、パンフレット、雑誌投稿での広告が一般的だが、Face to Face の営業、実績、信頼関係が最も重要（一部の国では広告自体が禁止）。
- ・ 差別化のためのトリプルボトムライン（経済、社会、環境）等の重要性が増加。
- ・ ブランド化はマーケティングツール、社員のモチベーション向上に有効。
例）“ UMEX ... Your developing partner for life”

Case4 今後の課題

- ・ 技術者の不足（経済成長下の国...オーストラリア、フィンランド、サウジアラビア etc.）
- ・ コミュニケーション力の不足（成熟期を迎える国...日本、韓国）
- ・ 持続的なグローバル化（途上国とその他の国...ウガンダ）

[将来に向けての提言]

より魅力的な業界にするためには、何が必要か？ 我々はいつもその答えをスーパーマンに求めるが、スーパーマンは実在しない。本当に必要なのは、高い能力を発揮するチームとそのための人材育成やプロファイリングである。また、モチベーション向上のためのキャリアパスの明確化や企業のブランドイメージの構築、さらに、より良い仕事環境を創出するためのタイムマネジメントが必要である。

4.研修を終えて

ハードワーク、収入が低い、このところ魅力がないといった建設コンサルタントの悩みは世界共通であったことを知り、ほっとすると同時に親近感を覚えました。一方で、研修を通してEU、アメリカに対してアジア内でのつながりが薄いことを感じ、漠然とはありますが、アジアのネットワーク強化が必要だと感じるようになりました。

このプログラムは、会社や個人にかかる負担は大きいですが、刺激的で有益なプログラムです。今回のプログラムを通して得た世界的な技術者のネットワークは大変貴重なものであり、今後の参加者とも連携してより有益なものにしていきたいと思います。

Young Professionals Management Training Program 2006 (YPMTP)

AJCE FIDIC大会報告会

株式会社長大 広島支店 手塚誠

■ YPMTPとは？

1

- 若手建設技術コンサルタントのためのマネジメントに関する国際研修プログラム
- 将来のマネージャー育成が目的
- DIEU (デンマークの人材育成会社) が運営
- ヨーロッパ、アフリカ、アジア、アセアニアなどから30名が参加
- 参加者の自主性を重視したディベート中心のプログラム

■ 研修の内容

2

STEP1 Web上でのディベート(7ヶ月間)

- ・Web上の仮想キャンパスで4つのテーマについて議論
- ・各テーマの立上げ、中間、まとめの3回はテレビ会議で議論



仮想キャンパス



テレビ会議

■ 研修の内容

3

STEP2 ハンガリーでのディベートと発表

- ・FIDIC大会の3日前に集合し、Web上でのディベートのまとめと将来に向けた提言について議論
- ・FIDIC大会最終日に研修の成果を発表



ホテルでの議論



FIDIC大会での発表

直前のリハーサル

■ ディベートの内容

4

以下の4つのテーマについて、各国の現状や課題、今後の方策について議論

- Web上で ...
- Case1 組織構造と人材育成
 - Case2 所有構造
 - Case3 市場
 - Case4 今後の課題



ブダペストで ... 将来に向けた提言

Case1 組織構造と人材育成

5

(組織構造について)

- ・組織構造...分野別、マトリクス、フレキシブル etc.
- ・業務分野の幅広さ、会社やプロジェクトの規模、経済状況に応じて上記の構造を組合わせた組織を形成

(人材育成について)

- ・技術者をアウトソーシング(嘱託も含む)する傾向にあり、技術や情報の伝達・継承が課題
- ・経済が下降している国では、人材育成への投資が不足

6

Case2 所有構造

(所有構造の現状)

- ・所有構造...パートナーシップ、内部保有、上場企業 etc.
- ・参加者の所属企業の多くはパートナーシップや内部保有で、上場企業は大企業に限られる

(メリットとデメリット)

- ・内部保有は社員のモチベーション向上に有効
- ・上場企業は資金確保の面で有利だが、株主優先の経営、吸収・合併の懸念などのデメリットが多い

7

Case3 市場

(マーケティングの現状)

- ・Website、パンフレット、雑誌投稿 (一部の国では広告自体が禁止)
- ・Face to Faceの営業、実績、信頼関係が最も重要
- ・差別化のためのトリプルボトムライン (経済、社会、環境)

(ブランド化について)

- ・ブランド化はマーケティングツール、社員のモチベーション向上に有効

“UMEX ... Your developing partner for life”

8

Case4 今後の課題

■ 技術者の不足 (経済成長下の国...オーストラリア、フィンランド、サウスアフリカ etc.)

若い世代を惹き付ける、育成する、とどまらせる工夫が必要
国際的な人材共有などの新しい取り組み

■ コミュニケーション力の不足 (成熟期を迎える国...日本、韓国)

- ・企業の責任が拡大 コンサルティング能力の向上が必要

■ 持続的なグローバリゼーション (途上国において...ウガンダ)

- ・コストベースでの業者選定のため安い労働力が流入
ルールづくりが必要 (FIDICの役割が重要)

9

[将来に向けての提言]

より魅力的な業界にするためには何が必要か？ 我々はいつもその答えをスーパーマンに求めるが、スーパーマンは実在しない。必要なのは、**高い能力を発揮するチームとそのための人材育成やプロファイリング**である。そして、モチベーション向上のためのキャリアパスの明確化や企業のブランドイメージの構築、さらに、より良い仕事環境を創出するためのタイムマネジメントが必要である。

- ハイパフォーマンスチーム チームプレーヤーの育成
- キャリアパスの明確化 プロファイリング
- ブランドイメージの構築
- タイムマネジメント

10

■ 研修を終えて

■ 建設技術コンサルタントの悩みは世界共通

- ・ハードワーク、収入が低い、このところ魅力がないといった悩みは世界共通

■ アジアのネットワーク強化が必要

- ・EU、アメリカに対してアジア内でのつながりは薄い

■ 負担は大きいが刺激的な研修

- ・会社や個人にかかる負担は大きい、刺激的で有益な研修
- ・今後の参加者とも連携してより有益なネットワークにしたい

Young Professional Open Forum の報告

秋永薫児

(株)日水コン 下水事業開発部 担当部長
技術研修委員会 技術研修推進分科会幹事
国際活動委員会 IFI 分科会員・YPグループリーダー

会議名称 : FIDIC YP Open Forum

開催日時 : 2006年9月27日 16:00-17:15

場所 : Ballroom Intercontinental Hotel

議長 : Richard Stump (米国)

会議概要

YP(Young Professional)の Open Forum は昨年の北京大会より行われ、FIDIC および YPF への理解を助ける場として、そして自由な意見交換の場として提供されている。

今年は、この場で新しい YPF(Young Professional Forum)の Steering Committee メンバーの紹介、日豪交換研修(YPEP)の報告、Net Discussion Forum(Online YP)の現状と今後の運営、およびFIDIC大会の評価について意見交換が行われた。新しいS/Cメンバーは5名が入れ替わり、1名が退会(議長の新旧交代)し、9名となった。

YPEPの報告では、これまでの活動内容と10年を迎えた交換研修における問題点と今後のプログラム継続にあたって、ACEAとAJCEとの取り組みについて報告され、会場から幾つかの質問が出た。その内容から関心の高さが感じられ、また、このような研修制度への期待感もあるようであった。

Net Discussion Forumは約3年間の経験をもつが、実質的な運営管理は行われておらず、入会も簡単にできるため、いくつものトピックスに対してのまとめや報告ができないままになっている。しかしながら、具体的な議論にならず、今後の課題として持ち越された。

FIDIC大会への評価は、基調講演などは概ね良好であったが、講演者のキャンセルによる混乱には批判があった。要望として、YP用の討議場所、ワークショップ、セミナーの開催が揚げられた。

その他、スイス、スウェーデン、オーストラリアやフランスからもYP活動の状況についてコメントが寄せられた。現在、会員協会のYPグループが活動しているのは8カ国程度であり、ネットワークの強化が望まれる。

まとめとして、S/CはFIDICに対するYPの"Voice"であること、YPの居場所を作っていくこと、YPのMA間における交換研修が国際的な視野の拡大をもたらすことを述べ、YPの育成活動に強い関心を示していた。

日本に於ける課題、提案

日豪交換研修への関心が高く、この内容を充実させることでFIDIC-YPFにおけるリーダー的立場を保つことができる。Open ForumはYPが一同に会し、ざっくばらんに意見交換できる場所があるので、多くの人に参加してほしい。

[Home](#)
[Site Search](#)
[Contact FIDIC](#)

[New News Directories](#)
[Calendar](#)
[Products](#)
[Account](#)
[Wishlist](#)

BOOKSHOP	EVENTS	FORUMS	ATTENDING	REGIONS	FEDERATION
--------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------------------

Welcome Young Professionals Contracts Practice Training Representation

Young Professionals

Welcome Net Forum

Home | [Profile](#) | [My Topics](#) | [Active Topics](#) | [Members](#) | [Search](#) | [Help](#)

Members: [Password](#)

☐ Save Password

[Forgot Password?](#)

Richard Jones

[View Profile](#)

[View Topics](#)

[View Recent Posts](#)

Author

Richard Jones

[View Profile](#)

[View Topics](#)

[View Recent Posts](#)

Topic

Replied - 03/10/2006 - 10:57:47

Jan 9 Posts

Hi again to all who where present in the Budapest conference. I thought we should start talking about the conference and the parts we liked and those that were not what we expected them to be...

From my view - the first day morning was good, especially Roger Plamondon's lecture, but the afternoon was not what I thought a FIDIC conference must have been, the lecturers were not at all acceptable even by standards of a ordinary local seminar.

The second day work shop were good, but otherwise the last part of the second day was "girls with violins" :)

The FIDIC lecture workshop on the third day was very good, Richard did a very good job conducting the program and about the attendance of Fido and Fida presenters and Fido's past and future problems in this program about the importance of the VPP for Fido.

Richard Jones

Replied - 03/10/2006 - 10:29:02

USA 10 Posts

Re:Jan.

Thanks again for your thoughts. For those who attended the FIDIC conference - feedback is important in making sure that the conference is useful to those who attend.

FIDIC is not designed to be a technical engineering conference—it is an organization that attempts to represent the diversity of engineers around the entire planet. This is not an easy task!

The FIDIC website gives some idea of the issues that FIDIC considers important: capacity building; new FIDIC contracts and use of contracts; quality based selection (QBS), among other topics. To make things even more challenging, not everyone agrees on how to implement these issues!

What can FIDIC do to make the 2007 conference in Singapore more effective?

Jan 9 Posts

Replied - 04/10/2006 - 10:43:13

By writing that some of the lecturers were not as good as I thought they should have been, I meant to address that some of them were not able to manage their lecture time properly (not at all acceptable for a lecture at an international conference), there was actually nothing about sustainable development or capacity building or environmental management (all on Fido's most important issues list) and there was this one lecture that was totally commercial.

I have to admit that attending the conference was a very good experience for me. It was not just the conference, it was the gathering of all these people from around the world, letting them to discuss together their problems and their ideas, that's why I believe the workshops were great, and it was not just what happened in the conference room, the coffee time and the lunch time were also perfect times for meeting the peers...

For sure I will attend the next conference too...

[Home](#)
[Site Search](#)
[Contact FIDIC](#)

[New News Directories](#)
[Calendar](#)
[Products](#)
[Account](#)
[Wishlist](#)

BOOKSHOP	EVENTS	FORUMS	ATTENDING	REGIONS	FEDERATION
--------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------------------

Welcome Young Professionals Contracts Practice Training Representation

Young Professionals

Welcome Net Forum

Home | [Profile](#) | [My Topics](#) | [Active Topics](#) | [Members](#) | [Search](#) | [Help](#)

Members: [Password](#)

☐ Save Password

[Forgot Password?](#)

Richard Jones

[View Profile](#)

[View Topics](#)

[View Recent Posts](#)

Author

Richard Jones

[View Profile](#)

[View Topics](#)

[View Recent Posts](#)

Topic

Replied - 03/10/2006 - 10:57:47

Jan 9 Posts

Hi again to all who where present in the Budapest conference. I thought we should start talking about the conference and the parts we liked and those that were not what we expected them to be...

From my view - the first day morning was good, especially Roger Plamondon's lecture, but the afternoon was not what I thought a FIDIC conference must have been, the lecturers were not at all acceptable even by standards of a ordinary local seminar.

The second day work shop were good, but otherwise the last part of the second day was "girls with violins" :)

The FIDIC lecture workshop on the third day was very good, Richard did a very good job conducting the program and about the attendance of Fido and Fida presenters and Fido's past and future problems in this program about the importance of the VPP for Fido.

Richard Jones

Replied - 03/10/2006 - 10:29:02

USA 10 Posts

Re:Jan.

Thanks again for your thoughts. For those who attended the FIDIC conference - feedback is important in making sure that the conference is useful to those who attend.

FIDIC is not designed to be a technical engineering conference—it is an organization that attempts to represent the diversity of engineers around the entire planet. This is not an easy task!

The FIDIC website gives some idea of the issues that FIDIC considers important: capacity building; new FIDIC contracts and use of contracts; quality based selection (QBS), among other topics. To make things even more challenging, not everyone agrees on how to implement these issues!

What can FIDIC do to make the 2007 conference in Singapore more effective?

Jan 9 Posts

Replied - 04/10/2006 - 10:43:13

By writing that some of the lecturers were not as good as I thought they should have been, I meant to address that some of them were not able to manage their lecture time properly (not at all acceptable for a lecture at an international conference), there was actually nothing about sustainable development or capacity building or environmental management (all on Fido's most important issues list) and there was this one lecture that was totally commercial.

I have to admit that attending the conference was a very good experience for me. It was not just the conference, it was the gathering of all these people from around the world, letting them to discuss together their problems and their ideas, that's why I believe the workshops were great, and it was not just what happened in the conference room, the coffee time and the lunch time were also perfect times for meeting the peers...

For sure I will attend the next conference too...

[Home](#)
[Site Search](#)
[Contact FIDIC](#)

[New News Directories](#)
[Calendar](#)
[Products](#)
[Account](#)
[Wishlist](#)

BOOKSHOP	EVENTS	FORUMS	ATTENDING	REGIONS	FEDERATION
--------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------------------

Welcome Young Professionals Contracts Practice Training Representation

Young Professionals

Welcome Net Forum

Home | [Profile](#) | [My Topics](#) | [Active Topics](#) | [Members](#) | [Search](#) | [Help](#)

Members: [Password](#)

☐ Save Password

[Forgot Password?](#)

Richard Jones

[View Profile](#)

[View Topics](#)

[View Recent Posts](#)

Author

Richard Jones

[View Profile](#)

[View Topics](#)

[View Recent Posts](#)

Topic

Replied - 03/10/2006 - 10:57:47

Jan 9 Posts

Hi again to all who where present in the Budapest conference. I thought we should start talking about the conference and the parts we liked and those that were not what we expected them to be...

From my view - the first day morning was good, especially Roger Plamondon's lecture, but the afternoon was not what I thought a FIDIC conference must have been, the lecturers were not at all acceptable even by standards of a ordinary local seminar.

The second day work shop were good, but otherwise the last part of the second day was "girls with violins" :)

The FIDIC lecture workshop on the third day was very good, Richard did a very good job conducting the program and about the attendance of Fido and Fida presenters and Fido's past and future problems in this program about the importance of the VPP for Fido.

Richard Jones

Replied - 03/10/2006 - 10:29:02

USA 10 Posts

Re:Jan.

Thanks again for your thoughts. For those who attended the FIDIC conference - feedback is important in making sure that the conference is useful to those who attend.

FIDIC is not designed to be a technical engineering conference—it is an organization that attempts to represent the diversity of engineers around the entire planet. This is not an easy task!

The FIDIC website gives some idea of the issues that FIDIC considers important: capacity building; new FIDIC contracts and use of contracts; quality based selection (QBS), among other topics. To make things even more challenging, not everyone agrees on how to implement these issues!

What can FIDIC do to make the 2007 conference in Singapore more effective?

Jan 9 Posts

Replied - 04/10/2006 - 10:43:13

By writing that some of the lecturers were not as good as I thought they should have been, I meant to address that some of them were not able to manage their lecture time properly (not at all acceptable for a lecture at an international conference), there was actually nothing about sustainable development or capacity building or environmental management (all on Fido's most important issues list) and there was this one lecture that was totally commercial.

I have to admit that attending the

Optional tours and Social Events

(有)ケープラス 取締役社長 花岡 浩
いであ(株) 東京支社副支社長 小川 義忠

2006 年 FIDIC Budapest 大会の Optional Tours 及び Social Events として下記が実施された。

9 月 24 日(日)	14:00-17:00	シティーツアー：ブダペスト市内(op.)
	19:30-21:30	ウェルカムレセプション：西洋美術館
9 月 25 日(月)	10:30-15:30	ドイツツアー：国会議事堂、中央市場等(op.)
	19:30-22:00	イブニングイベント：Budapest Philharmonia(オペラハウス)
9 月 26 日(火)	08:50-14:00	ドイツツアー：Szentendre, Visegrad(op.)
	19:00-24:00	ガラ晚餐会：Hotel Gellert Ballroom
9 月 27 日(水)	20:00-23:00	ダニューブ川ディナークルーズ

Post Conference tours:

9/28～9/30 ハンガリー平原観光：ホルトバージ&デブレツェン

9/28～9/29 バラトン湖観光：バラトン湖&ケストヘイ

●シティーツアー (Sun.)

到着日翌日(土)の自由観光に加えて日曜日のシティーツアーに参加した。30歳前後と思われる女性ガイドの説明の半分以上はハンガリーの歴史に係わるもの。英雄広場では如何に建国し、キリスト教に改宗し、異民族の侵入に悩ませられながらも国を維持してきたかの説明にハンガリーへの愛着と思い入れが伝わってきた。第1次、2次大戦の結果で以前の2/3の領土を失ってしまったという点には悔しさも滲んでいた気がした。

観光的な場所或いは街の広場でジプシーバイオリン弾きが弾いていた。ゆっくりとした哀愁を感じさせるメロディーを奏でている彼らの顔つきは明らかにアジア・アラブ系であり一種の Sympathy を感じた。ゲッレールト丘では200フォリント(120円相当)紙幣を出すといっぱいサービスしてくれた。金銭箱にはほとんどコインしかなかったので少しは多めだったのだろう。

●ウェルカムレセプション (Sun.)

場所は英雄広場の国立西洋美術館。Rembrandt 展の絵画を展示している部屋が懇親の会場に充てられたのには吃驚した。参加者は400人もいただろうか大変な盛況であった。

開会は Hungary の Gyula Bretz AHCEA 会長の挨拶に続いて Budapest の少年少女合唱隊の清らかな歌声が聞こえ始めるとざわざわした話し声も次第に小さくなって透き通るような声の響きに包まれたオープニングであった。

国を代表する音楽家のバルトークとコダーイによる曲は恐らく民族音楽を含んでいたものと思われるが、ジプシー音楽とは違う伸びやかな調べであった。

引き続き懇親会場は出身国グループ、旧知の仲間によるグループ、本日知り合った同士の会話など多くの小テーブルを囲んで話が弾んでいた。



●夜のオペラハウス (Mon.)

FIDIC 参加者約 500 名のうち 300 名が聞きに行ったようであり、劇場は満員であった。120 年の歴史のあるオペラ座は一部改修中であったが、ウィーンのオペラハウスをやや小振にした感じの伝統と由緒を感じさせる劇場である。建設当時、オーストリー・ハンガリー帝国の主であるハプスブルグ家の王妃エリザベートが良く聴きに着たとの事であるが、どこのコンパートメントに座って聞いたのだろうかと思いをはせ歴史を感じさせてくれた。

曲目はハンガリーの作曲家バルトークの弦楽合奏曲であるディベルティメントとロシアのショスタコービッチの交響曲第 7 番の 2 曲。交響曲の終了後は拍手が鳴り止まず、ほとんどの演奏者（グループ）を個別に賞賛（拍手）の対象にしてアンコールに応えていたのが通常は見られない光景であった。

ただ、何れも内容的には重い曲であり、エリザベートの時代のシンフォニー或いはオペラを聴いてみたいとも思ったが、それは次回の楽しみという事にしたい。

FIDIC メンバーは最前列から順に席をしめ指揮者と弦楽奏者の息遣いまでもが聞こえるようであった。

休憩時間の歓談に加えて、終了後にもカクテル・パーティが有り音楽の余韻を感じながら FIDIC メンバー間の懇親を深めた。



オペラハウスでの音楽会

●ガラ晩餐会(Tue.)

Gellert Hotel にはブラックタイやイブニングドレス、ナショナルドレスで着飾った参加者が多くの夫婦連れて参加し大変華やかであった。

屋外での歓談から始まり、暫く食事と歓談の中、女性 3 人の Violin 演奏からスタート。妖艶な純白のドレスでの演奏はジプシー音楽の哀愁もセクシーさが優って聞こえてくる。会場が一気に盛り上がった。音楽も Rock 系のバンドに変わりダンスが始まった。始めは欧米人のみだが日本からの参加者も藤江事務局長ご夫妻に続いて踊り出した。国際会議に参加するためにはダンスも必須科目のようである。



ガラ晩餐会の Violin 演奏

●ダニューブクルーズ(Wed.)

Budapest 最後の夜である。2 階建ての船の階下で数名による生演奏のもとダニューブ川を巡航した。外を見るとライトアップされた宮殿、国会議事堂、くさり橋などが浮き上がって見えた。歓談に忙しい中、生演奏が何であったか確認する前に 2 時間半があっという間に過ぎてしまった。



ダニューブクルーズ・くさり橋



●会議を終えて

今回の FIDIC 世界大会参加の動機は“ コンサルティングエンジニアの世界とは？ ”への興味と“ 音楽の都 Budapest ”の魅力であった。Opera House の Event など、期待以上に音楽に満ちた会議であり参加動機の一つはほぼ満足できた。もう一つの“ F I D I C とは？ ”については、おおむね予想していた程度と言える。何も分からないような状況での Workshop の一つで、取りあえず“ 発言することに意義あり ”として発言もしたが、語学力を始めとして、Consulting Engineer としての見識、行動の Innovation の重要性を認識した。

以上

Optional tours and Social Events

いであ(株) 小川 義忠

(有)ケープラス 花岡 浩

2006年FIDIC Budapest大会 での実施内容

9月24日(日)	14:00-17:00	シティーツアー：ブダペスト市内
	19:30-21:30	ウェルカムレセプション：於 西洋美術館
9月25日(月)	09:00-10:00	オープニングセレモニー：於 ナショナルシアター
	10:30-15:30	デイツアー：ブダペスト市内
	19:30-22:00	イブニングイベント：Budapest Philharmonia(オハラウス)
9月26日(火)	08:50-14:00	デイツアー：センテンドレ, ヴィシェグラード
	19:00-24:00	ガラ晩餐会：ホテル ゲッレールト 舞踏場
9月27日(水)	20:00-23:00	ダニューブ川ディナークルーズ

Post Conference tours:

9 / 2 8 - 3 0 ダニューブ川以東観光 : ホルトバージ&デブレツェン

9 / 2 8 - 2 9 パラトン湖観光 : パラトン湖&ケストヘイ



Restaurant (Comme Dhez Soi) にて



大きな大きなフォアグラ

Budapest到着日のくつろぎ



ゲッレールト丘の上の吹奏楽隊



愛国の気持ちに満ちたガイドさん

City Tour



国会議事堂

英雄広場

ガブリエル大天使と
英雄達

City Tour



マーチャーシュ教会下:
200フォリント寄付



City Tour



エルジェーベト広場

ジプシーバイオリン弾き達



ゲッレールト丘ケーブルカー



ダニューブ川と国会議事堂

City Tour



男性ハープ奏者
(ジプシーの他にも)



ジプシー鷺匠

City Tour



Donau-Symphonie-Orchester 演奏会
Hungary音楽小曲集の夕べ (個人的鑑賞)



レンブラント絵画に囲まれて

Welcome reception



- 国立美術館(レンブラント展/ピカソ展開催中) -

Welcome Reception



FIDIC & レンブラント : "光と陰"

Welcome reception



開会挨拶
(満杯の会場)



Budapest少年少女合唱隊
による清らかな調べ

Welcome reception



多くの懇親の輪



Welcome reception









食事に向かって
一斉に



Danube Dinner Cruise



楽しみの時を明日への力に

Danube Dinner Cruise



歓談のひとつき



Danube Dinner Cruise



ライトアップに映えるダニューブ川沿い

Budapestとのお別れ



Danube Dinner Cruise



国際交流
再認識する“女性の力”



Danube Dinner Cruise

楽しいひとときを
ありがとうございました。

— 限りなきInnovationを目指して —